

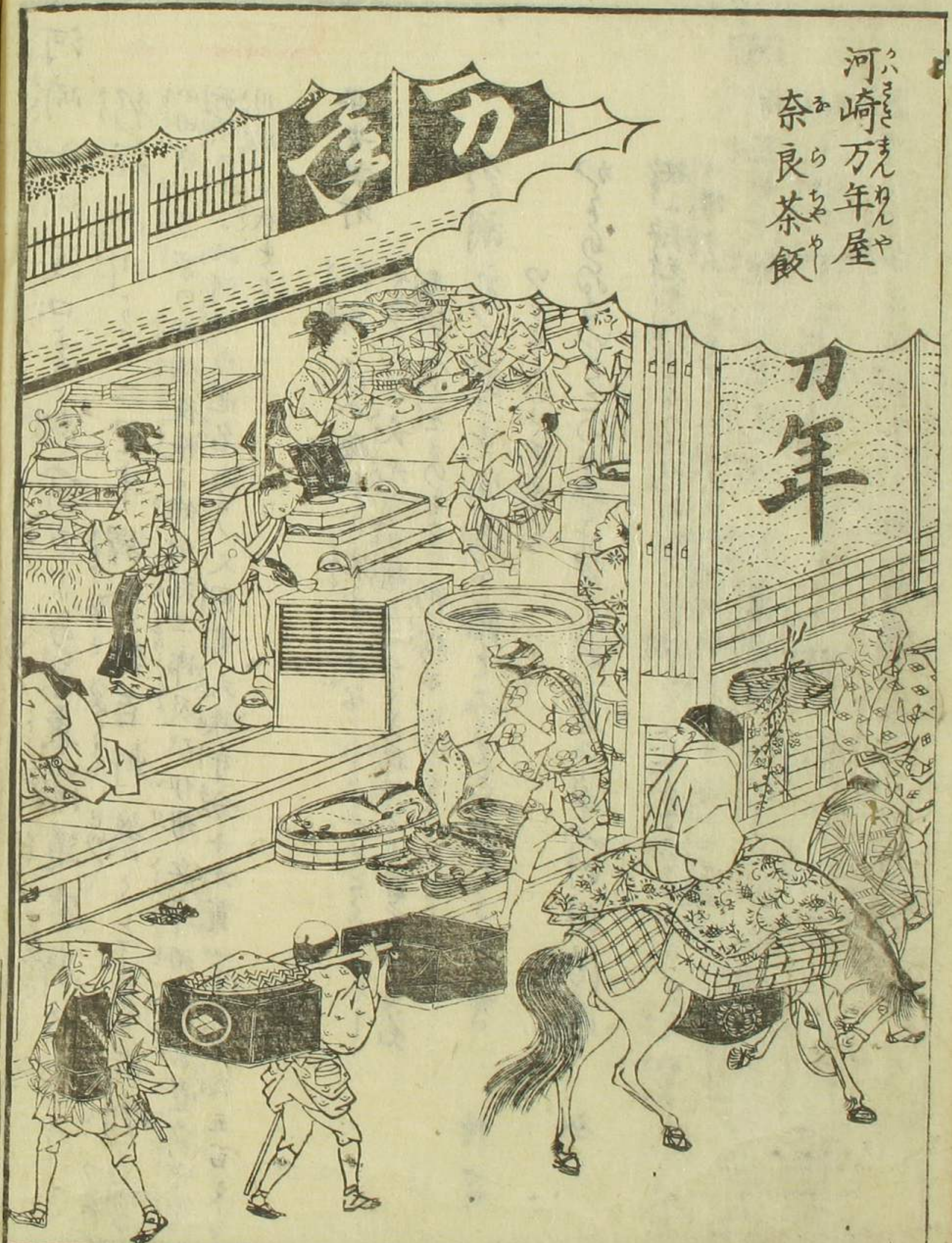


江戸茗所圖會

五

西垣文庫
文庫10
6556
5





按今河崎の驛舎の南は堀の内と字あり山王権現の社あり
疑ふらくも高重法谷より述ぶ所の河神なるを
あつたは其趣を違へり又法谷も堀の内と稱するも高重の旧館の地なる
れども土人もこれを詳しむる他日考へべきなり

堀内山王権現宮 河崎上新宿街道の中程より左へ入る二丁半

南より相傳ふ 欽明天皇の御宇勸請せしむと河崎の鎮守

中より神領あり 社司鈴木氏奉祀也 鈴木氏祖先三郎高重と
野の鈴木氏より

本社 祭神武甕槌命相殿 伊津主命 菊理媛 五神合祀也
伊津諾尊 伊津冊尊

正月三日流鏑馬神事あり六月十五日ハ大祭あり十三日あり
十六日に至る大祭賑へる其間渡田邑の海濱にあり所は旅

所へ神幸あり 堀森と号く河洗池ありその傍は舟の叢河あり又
土人云此河洗池に魚出ハまきり河あり 十五日神輿渡河の時前へ神幣七柄を持

御せし相傳ふ弘安四年川畑櫻川左近助と申する人勅を奉り
奉幣使とて当社に向つて一頃の幣串なりとて当社第一の

神寶とて奉幣使の人名を不審なりとて 又九月十九日角力の伎を
只傳説より記すのみ

奥村十一月廿三日ハ八年の市立也

按同所佐木明神の社記は佐木四郎高綱頼朝公の命を蒙り河崎
山王宮の社造営奉行なりとて云々を載り當社の名をさるるなり

河原桃林河崎渡口より大師河原迄の間あり田園悉く
桃樹を栽り故に開花の時に至るとハ紅白色を交へて奇

觀あり

除厄大師堂 大師河原にあり金剛山平間寺金乗蜜院と号し

真言宗あり醍醐三寶院に属す 當寺は安置せし大師の靈像を
大師河原と号し永祿二年小田原北条家の所領 此地より出現あり故にその地を

役帳は八行方与次郎といふ人此地を領すあり

弘法大師像 弘法大師の真作あり海中より出現
あり多佛體悉く貝壳相著てあり

額 金剛山 石川 木正亮 頼直筆 容殿は平間寺と書せしむ

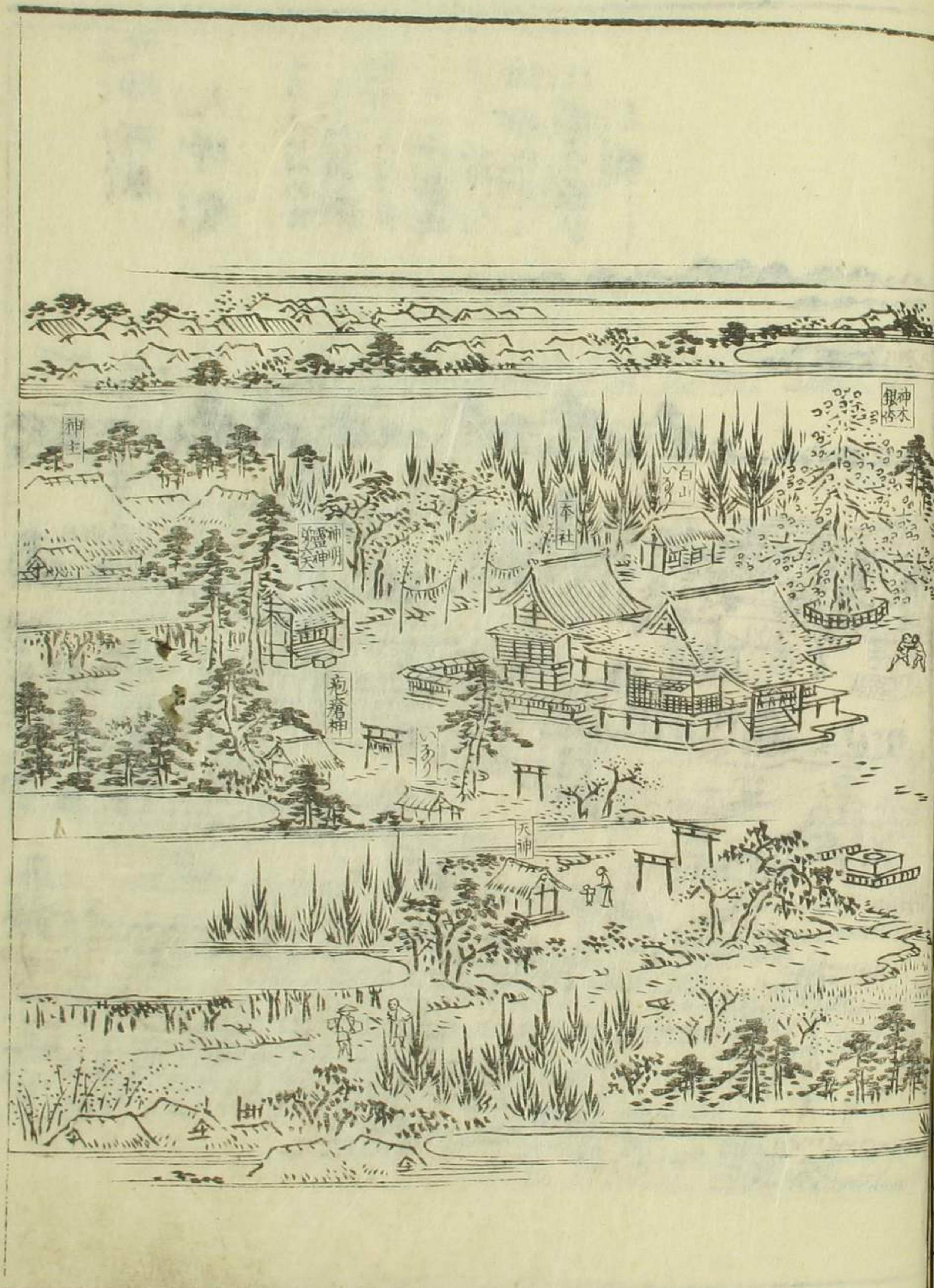
六字名號石碑 堂前左の方あり石面中は南無阿彌陀佛とあり
傍に寛永五年三月二十一日雪翁月盛居士と注し花押を

印せり碑陰は武州江戸京橋紀伊國屋櫻井又大快二月二日脚靈夢の所六郷
大橋ゆへ大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を添く

大橋ゆへ大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を添く

大橋ゆへ大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を添く

大橋ゆへ大師の御筆を蒙り此名号法名雪翁月盛居士万人は愚筆を添く



河崎山王社





此辺
茶屋
多

大師河原
大師堂
正五九月の廿一日
就中三月廿一日
一日ハ沙影供
あつく詣人
稲麻の如く
往還の賑ひ
尤夥し



神明
香籠権現

本堂

庫裏

玄關

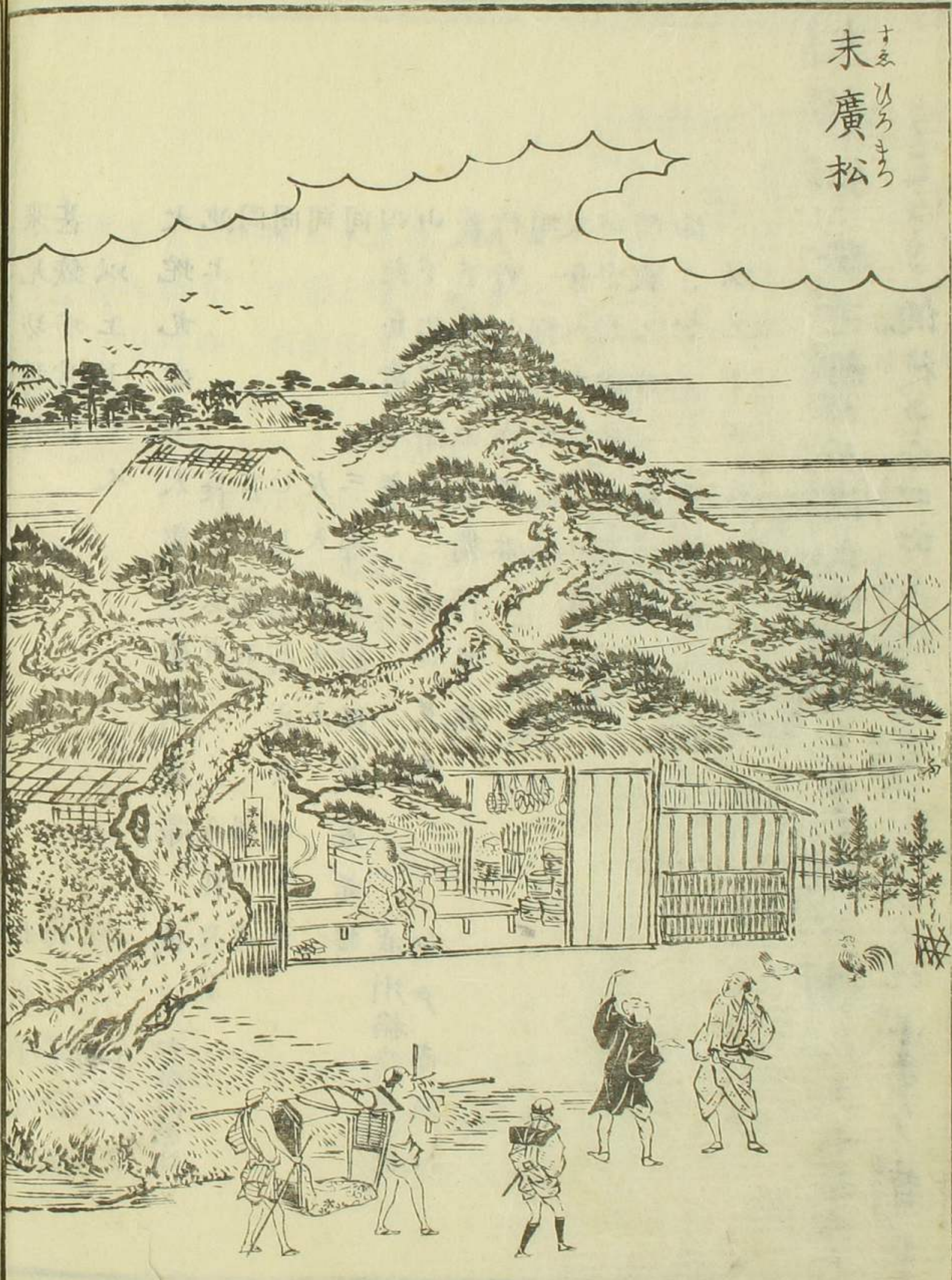
供養となす一鐫付り東海道名所記云く寛永年中江戸京橋は紀伊國屋作内
とて一文不通のものを酒を造りて業を内深く此本多と信仰し常は夜
運ひたる小舟の夢中は大師六字の名号を書教へ奇異の御ひをちある日
當寺の大師へ系指し給ひ六郷の橋の上へ筆一対拾ひ給ひ夫より大師の教へ
ぬ名号を書き給ひ筆勢は類ならず筆一対拾ひ給ひ夫より大師の教へ
大師河原に建よりされと外の字ハ一字とも書給はりきと云

縁起曰弘法大師の靈像ハ大治年間此所の浦に住る平間
氏某なる漁人常は三寶を敬み自家貧しく産業を弘ん
方便も無く空しく年月を送り迎へ既は四十二歳の年あり
依り災厄消除を神佛に祈り或夜大師告く曰く我昔
在唐の日自ら吾の肖像を彫り有縁の地は漂着せしむ
誓ひ海水に投を後久しく海底にありし今幸ふ此浦に止る
汝網を下して是をば永く此地に化益を布厄難を除滅
一人の所願圓滿なると漁人夢覺く奇異の事と
夜のありしを待り海上を見渡せば一條の光明赫たるありし

其所は舟を寄せ網を沈降せし果て夢中に見る此容
貌ハ毫釐も違はざる大師の靈像を得り仍一字を創立し
平間寺と号す平間氏の号を雨来に降靈應著く常小詣人
絶るなりな五月九日の廿一日別く三月二十一日ハ御影供終行
ある故ハ大は懸はつと

蜂 龍 盃 大師河原村池上氏の家に蔵せり往古慶安年間此地は
於る酒戦ありし時用ひりし盃ハ酒七合餘りしと云
盃中蜂と龍と蟹との象を描金にせり 蜂ハ龍ハ蟹ハ有と
相傳池上氏ハ小田原の北条家は馬仕小田原落城の後池
上村に移り池上を氏とす 後今の地へ此家ハ水鳥記より見えし酒客
大蛇丸底深々末裔なり 底深通稱を池上 慶安元年八月江戸大
塚の地黃坊樽次 茨木春潮と稱す春朝の弟ハ弟 此底深々家は至
樽次底深共は酒將とありし 數多の酒兵を集め敵身方と分れ

未廣松



庭中林泉の儲杯あり橋の傍に下戸の葦渡屋ありと
 注せし制札を建たりとなり酒客宴飲の旧跡を今田園を
 なる此松も底廣く愛樹ゆへ未廣と名つけたりと
 此家ゆへ酒戦の頃用ひたりと大盃ありと
 酒七合と云ふ盃中全泥
 榭金せりのあり箱の蓋に水鳥底廣盃と題し又左の如く此
 發句を注せしと

大所はありありありと標記とのあり
 路ありあり

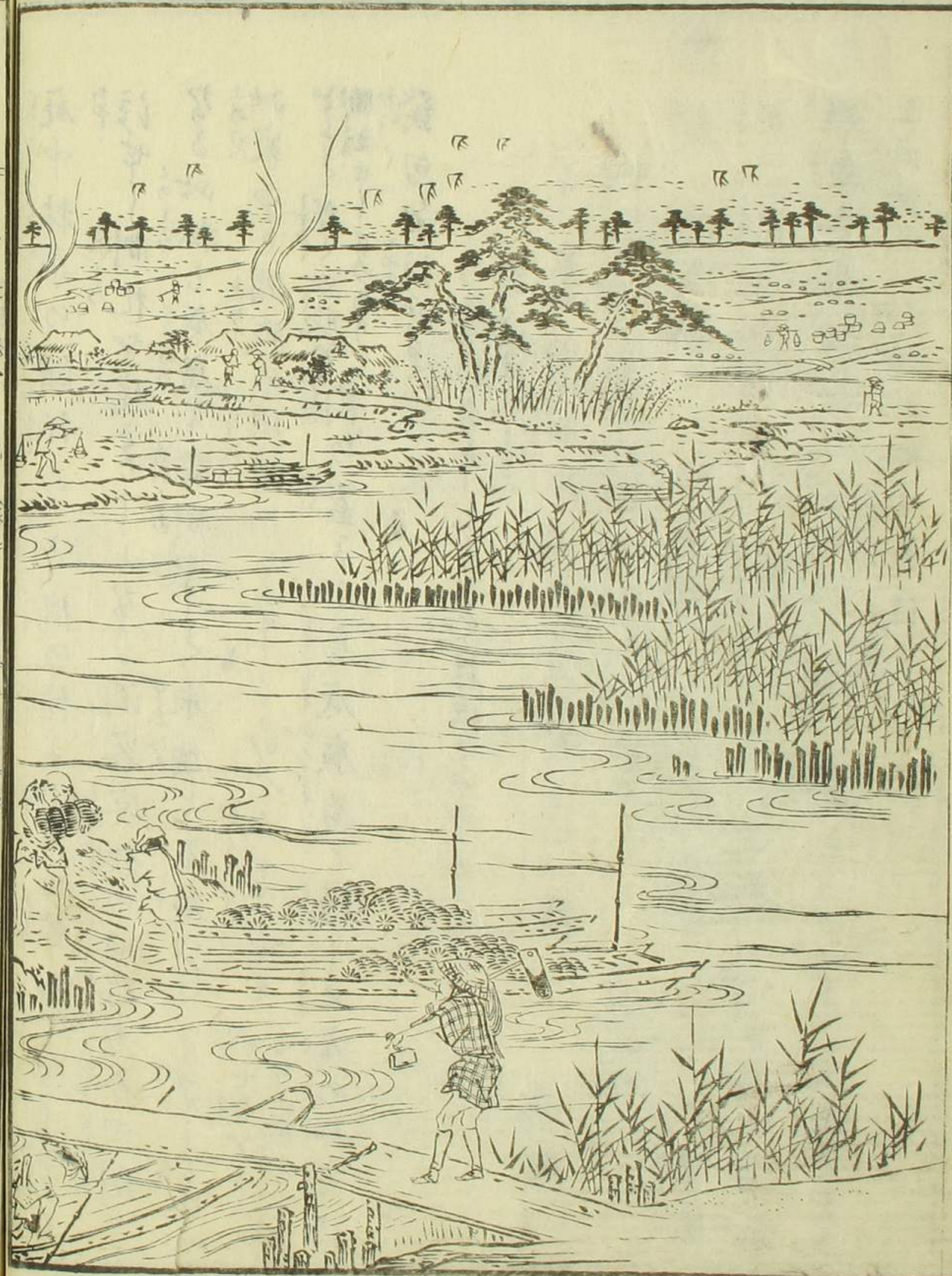
一之 蔓や西風上戸能む乃 程

活圃

按は底廣を標次と云ひ注せしと

鹽濱 同所南の方北海濱なり寛文九年己酉叶榮雲
 及い泉市右衛門といつる者閑初と云依り今も大師河原
 川中島稻荷新田等村に塩を製するを以て産業と云ふ
 その少くは此地風光甚佳景なりと

河崎
汐濱



石観音堂



石観音堂

同所平間寺より七丁斗り南あり天台宗に

慧日山明長寺と号し本堂ハ石像の如意輪観音之

故は石観音 毎月十七日道俗通夜糸菴を靈龜石ハ門内左の

垣の傍にある所の石の手水鉢を以て 土人おぼへ此石ハ往々享保

十八年の秋海底より出づ 捧げ揚ぐ依り大悲の威神ありあり同七月晦日竟は堂前より

損し水をこぼし

新田大明神社 堀の内山王の社より 耕田を隔て七丁斗南の方

渡田村の道より右におあり 渡田昔ハ 巨田小作 例祭ハ七月二日なり 土俗

云毎年四月元日と七月二日の 暁わら 必軍馬の 馴く音

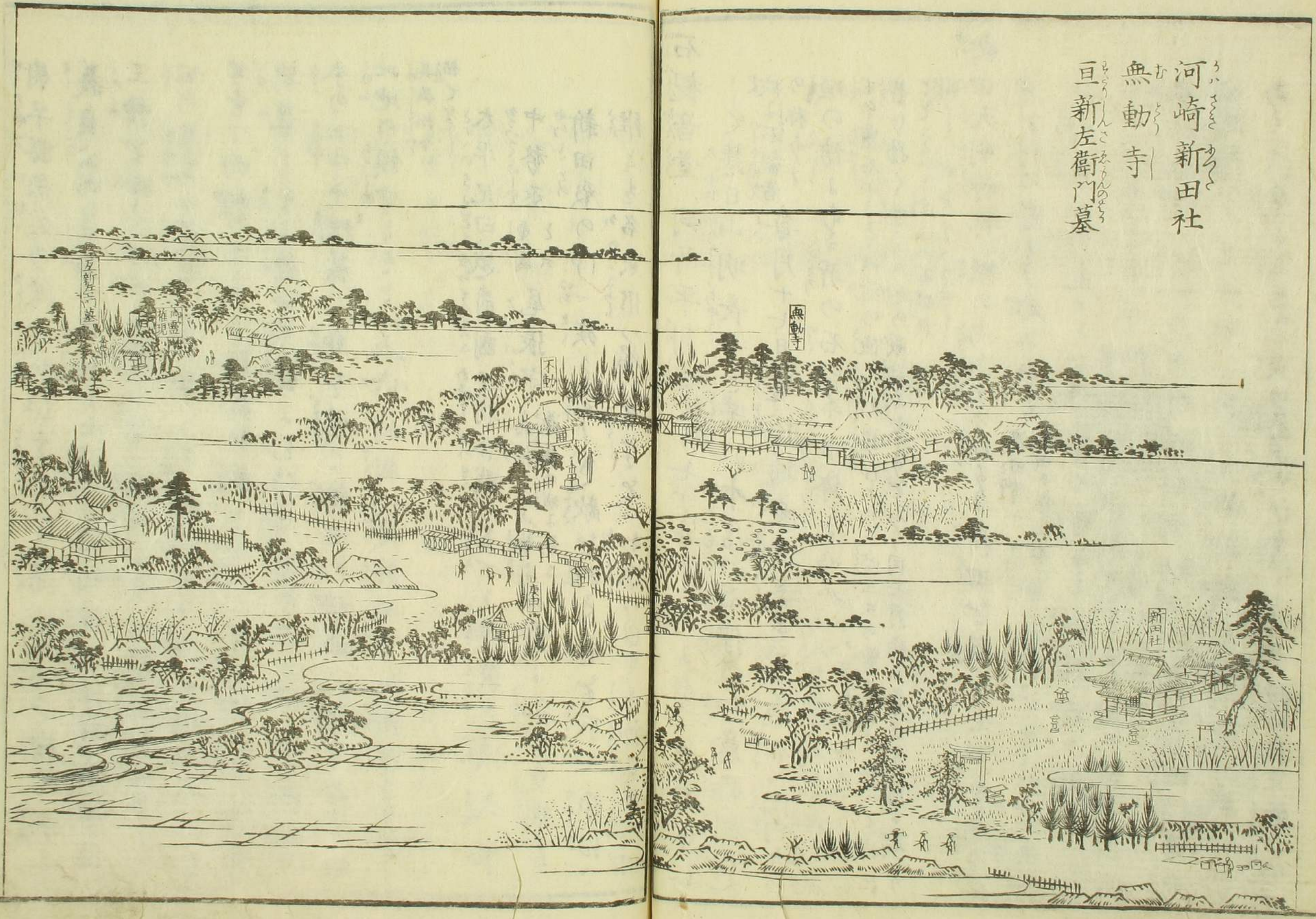
せりりあらしとて 相傳河北矢口村小鎮座より 向を 廢子義興公の神

本社祭神 新田左中将源義貞朝臣の靈なり 相傳義貞

公延元二年丁丑閏七月二日 越前國足羽の里に戦ひ利

あ〜 竟は主あき矢のあしひひ〜ハ骨鯁の臣巨新左衛門

河崎新田社
無動寺
巨新左衛門墓



尉早勝無念の涙を拭ひて不なる深泥の中と搜し求く
義貞公の差添の名剣とセツ入子の明鏡及陣羽織等純
三種とゆく此地は携へて幽室に安し朝夕給仕する
公の生家小異なりなり早勝終は弓馬を捨てる人に面
せむ一向静座し餘齡を養へ然る里民等公の徳茂
追慕して三種を早勝に乞ひ清潔の地を求め孤松の
本の土中埋藏し廟を営て新田大明神と崇まぬせ
此地の鎮守とせし御開國の後祭田等を附らるあり
其孤松今ハ
枯てなり

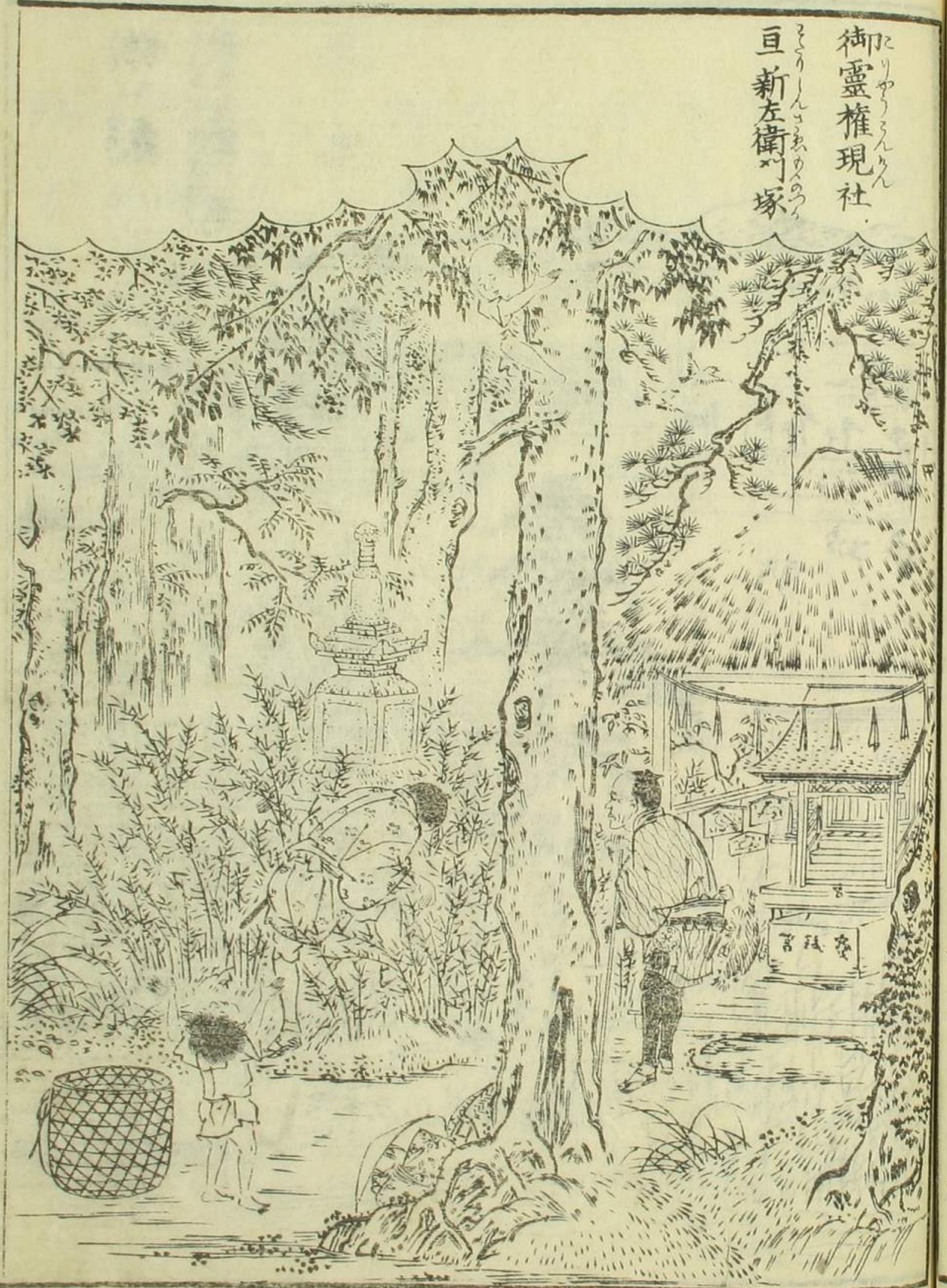
太平記曰越前國足羽合戦の条下は軍散る後氏家
中務丞と云尾張守高経の越前の前は参て重國を
新田敏の一族と云き敵を討く首を取て作はハ
誰とも名乗作らぬハ名字をハ知作らぬ馬物具の様相

順兵との尸骸を見く腹をきり討死を仕作けり膝
何様尋常の葉武者あてをあくと覺く作是を其死
人の膚は懸く作は護めく血を未あはぬ
首は土の著る全禰の守と副くそ出しりる尾張守
此首を能く見給ひくある不思議や世は新田左中將の
顔つゝ似たる所あるや若しれあは左の眉は上に
矢の疵有しと自鬢櫛を以て髪を搔あけ血を
洗き上をあらひ落し是を見給ふ果し左の眉の
上は疵の跡あり是は弥心付て帯る二振の太刀をハ取
寄るに給ふ金銀を延く作らぬ一振は銀を以
金膝纏の上は鬼切と云文字を沈し一振は金を以
銀脛巾の上は鬼丸と云文字を入らる是ハ共は源氏重
代の重宝あり義貞の方は傳はり聞ゆれハ未くの一族

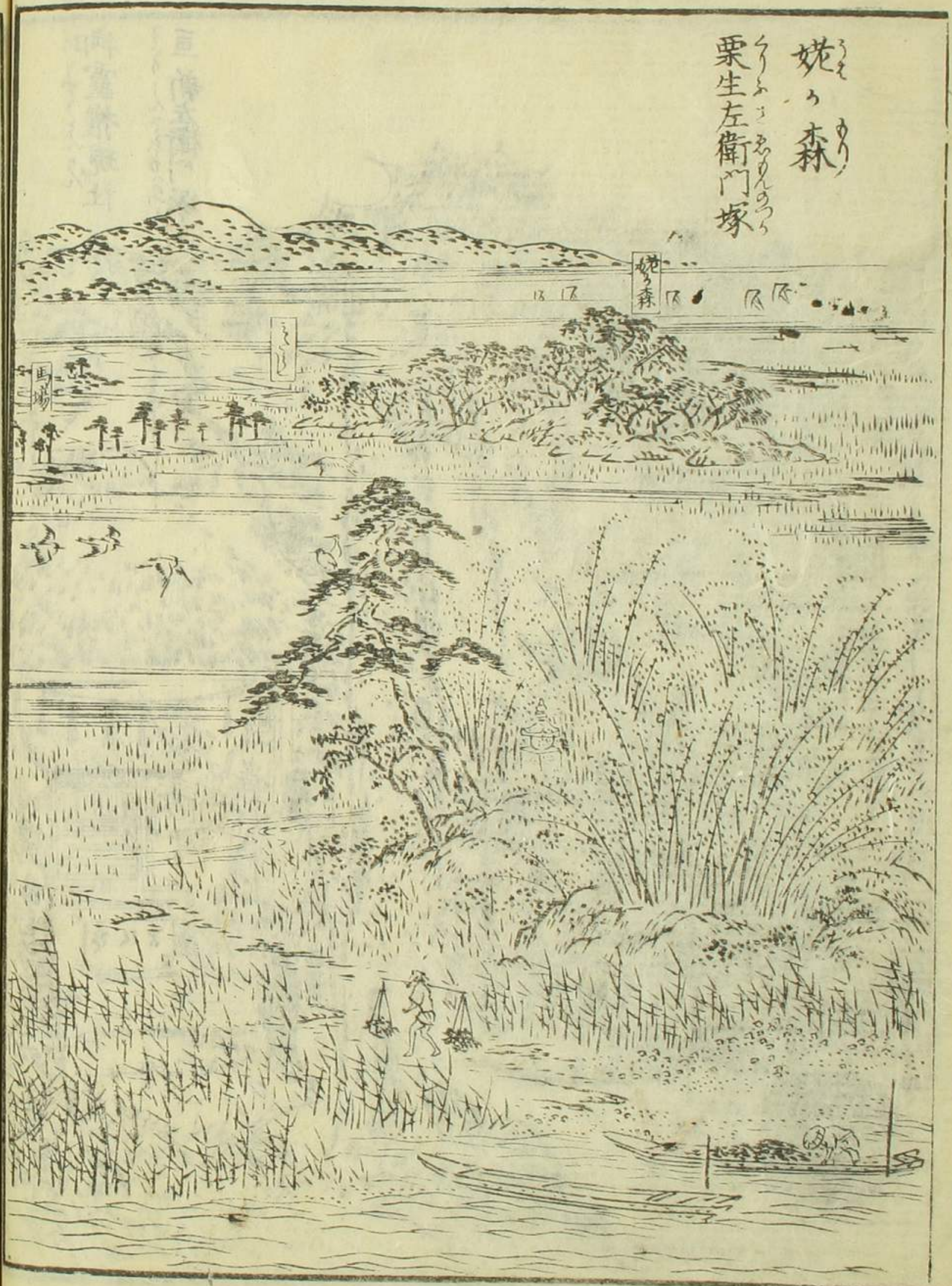
共の帯へそと太刀あち非もとるふ弥怪くれ八層の守を
 開くくえ終るふ吉野の帝は御宸筆あく朝敵征伐之
 事獻慮所向偏在義貞武功選未求他可運早速之計
 略者也と遊されそと扱ハ義貞の首は相違なるもたり
 とく尸骸を與え衆せ時衆八人ハ昇せそと葬礼のあり
 往生院へ送られ首を八木の唐櫃に入氏家中務を副く
 潜よ京都へ上せられたり云云

新田山成就院 聖無動寺と号は同所一丁斗南の方同
 側よあり新田大明神の別當寺ゆくと新義の真言宗
 六郷の宝幢院は属せり本寺不動明王ハ弘法大師の作
 中く義貞公護持の靈像なりとのみ
今別堂を建て威怒堂と
 名けりかこよ安まの内の
 左の方相傳義貞公入間川は陣を布ゆ頃二童子の枕上り
 あり
 立ちあひ瀧倉退治の心願あは八豆田の里は安置しある所の

御靈権現社
 巨新左衛門塚



姥ヶ森
栗生左衛門塚



不動尊と崇信せよとなり依る義貞公此靈像は誓願を

二光く竟は高時を討亡しあふとよ

巨新左衛門尉早勝居住旧址同所門前半町あまり西の方道

あり左よあり此地ハ元弘の頃巨新左衛門より赤邑なり則此

地より住しつるは早勝没するの後も里民其旧恩を忘れむ

しつ一祠と營建し早勝の霊を鎮く沖靈権現也

崇敬を傍り早勝の墳墓あり高と三尺計此石乃

層塔なり

姥ヶ森 成就院より七八町計南の方海濱よりあり堀の内

山王の旅所なり西の方へ續き馬場の形を存す主人義貞

馬場なりと云ふ洗池ハ森の中よ

栗生左衛門尉忠良塚 同姥ヶ森より八五丁計西の方海濱に

臨み方八間斗竹藪の中よ有り 五輪の石塔やせり 相傳ふ

文字剥落せり

忠良卒のの後早勝朋友の信を以て其靈骨を此地に埋藏し塚を築くといふ

瑞龍山宗參寺 河崎驛砂子町の右側の向あり洞家の禪刹

刹中未吉の宝泉寺に属す本寺釋迦如来の座像あり一尺五寸計の唐佛なり

職士の文殊普賢の本像に作者詳あり當寺古ハ藥師の別當寺あり

佐々木四郎高綱の香花院あり養光寺の藥師此寺あり

食地あり洞山ハ臨室玄統和尚と号昔ハ濟家の

禪林あり鎌倉の建長寺に属せし後天正に至り

小田原北条家の功臣間宮豊前守信盛といふ永祿二年小田

所領役帳に間宮豊前守所領武藏久良岐郡杉田江戸川崎小机未吉東

郡小机入西郡富屋三浦元文珠坊知行の地等々六百九十八貫百廿二文の

地を領す 佐々木四郎高綱の遠裔なりハ寺境方八丁と寄附

附未吉邑宝泉寺四代の住持自山長老を請て當寺の中

奥洞山と曹洞宗に改む信盛法名を瑞榮院殿雲谷

宗三大居士と号し其石塔ハ當寺佛殿の後の方银杏樹の

下に存元祿年間元祿四年辛未正月間宮家寺領附狀に間宮豊前守

按當寺什物元祿四年辛未正月間宮家寺領附狀に間宮豊前守

信盛法名宗三といふあり又當寺開基の墓碑中を雲谷宗參居士佐々木

前豊前守入道源康信と鐫りむあり

法名と宗參と作る猶疑ハ然れども寺号と宗參と稱し又康信茂當

寺の開基といふ時康信の法名ハ宗參なり疑無きハ似たり

高綱獲持の本寺ハ如意輪觀音の本佛あり座像一尺五寸

あり作者詳なり別堂に安んず本堂の左あり

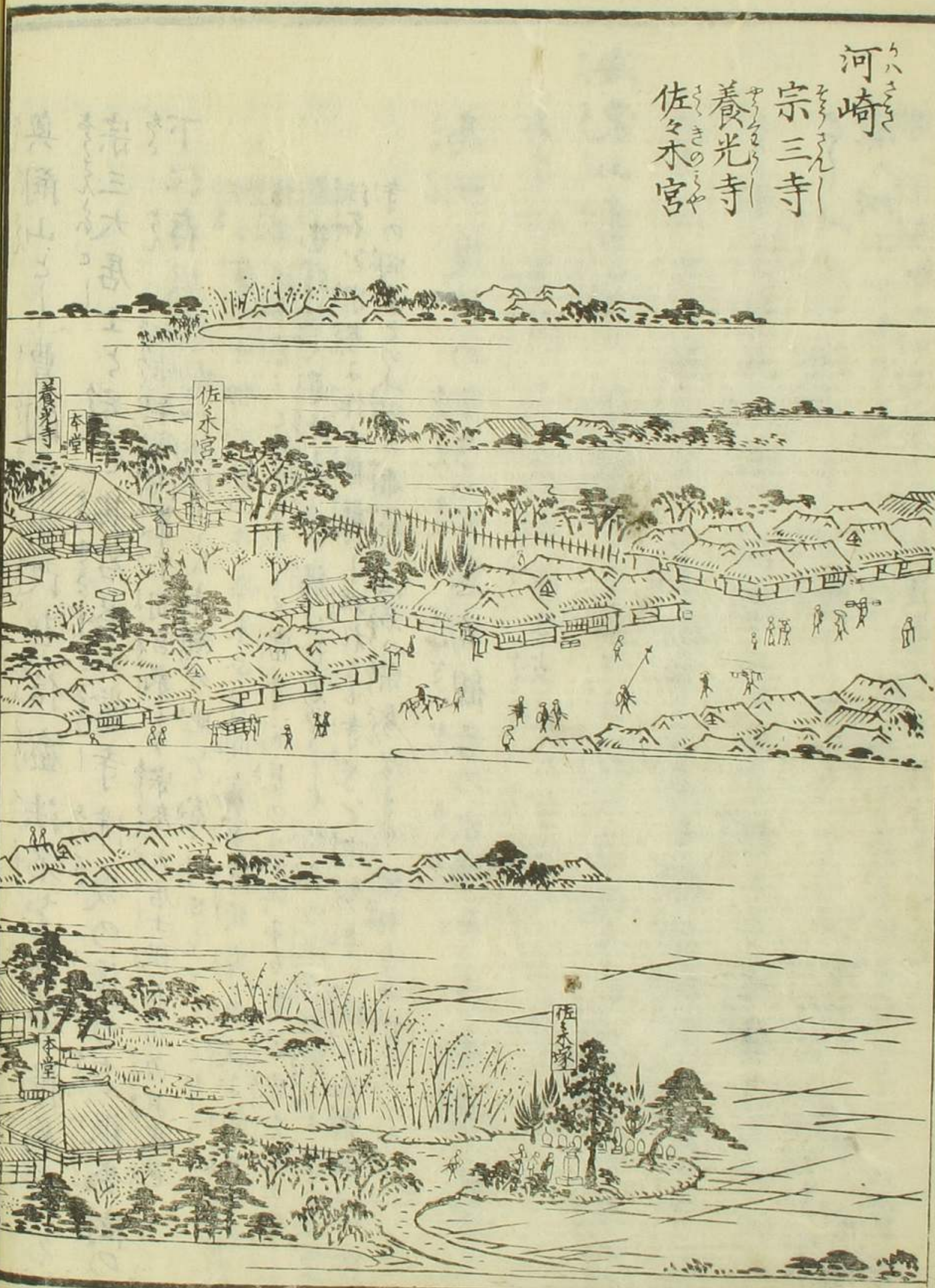
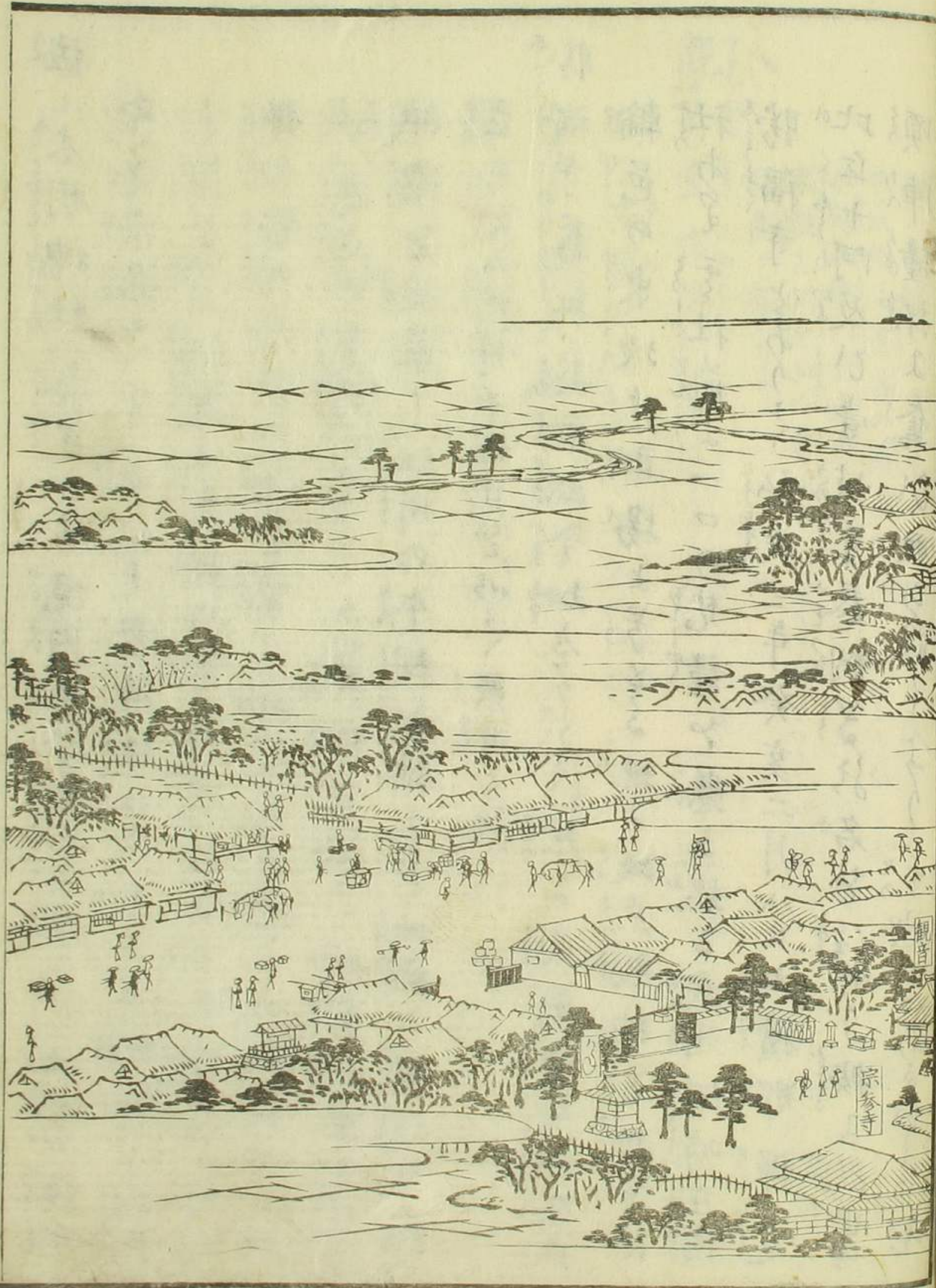
海栄山養光寺 宗參寺より四丁斗先の方砂子町の道より左側

あり洞家の禪宗より宗參寺に属す指月和尚開創の寺院

より本寺藥師如来の座像二尺五寸計あり延暦六年丁卯の

と此地の海中より出現しあり

瀨の砂子を集めて其上に安置せしあり砂子といふ地名發しと此靈像昔ハ宗參寺の本寺なりと後當寺に遷すと云ふ



河崎 カサキ
宗三寺 そうさんじ
養光寺 ようこうじ
佐水宮 さみづのみや

河崎
宗三寺
養光寺
佐水宮

佐々木明神社 養光寺の境内本堂の右に並へて此地の鎮守
なり宗参寺より奉祀を祭神近江の佐々木明神は相
同しきとの相殿は高綱の靈を崇むるとぞお傳ふ高綱
鎌倉右大将家の命を蒙り此河崎の地は山王宮堀の内
に建立の事ありけり其縁を採り間宮信盛先靈の
神徳を追慕し江州の本祠を摸し此地は當社を創
立せしと云九月十九日を以て祭日と爲

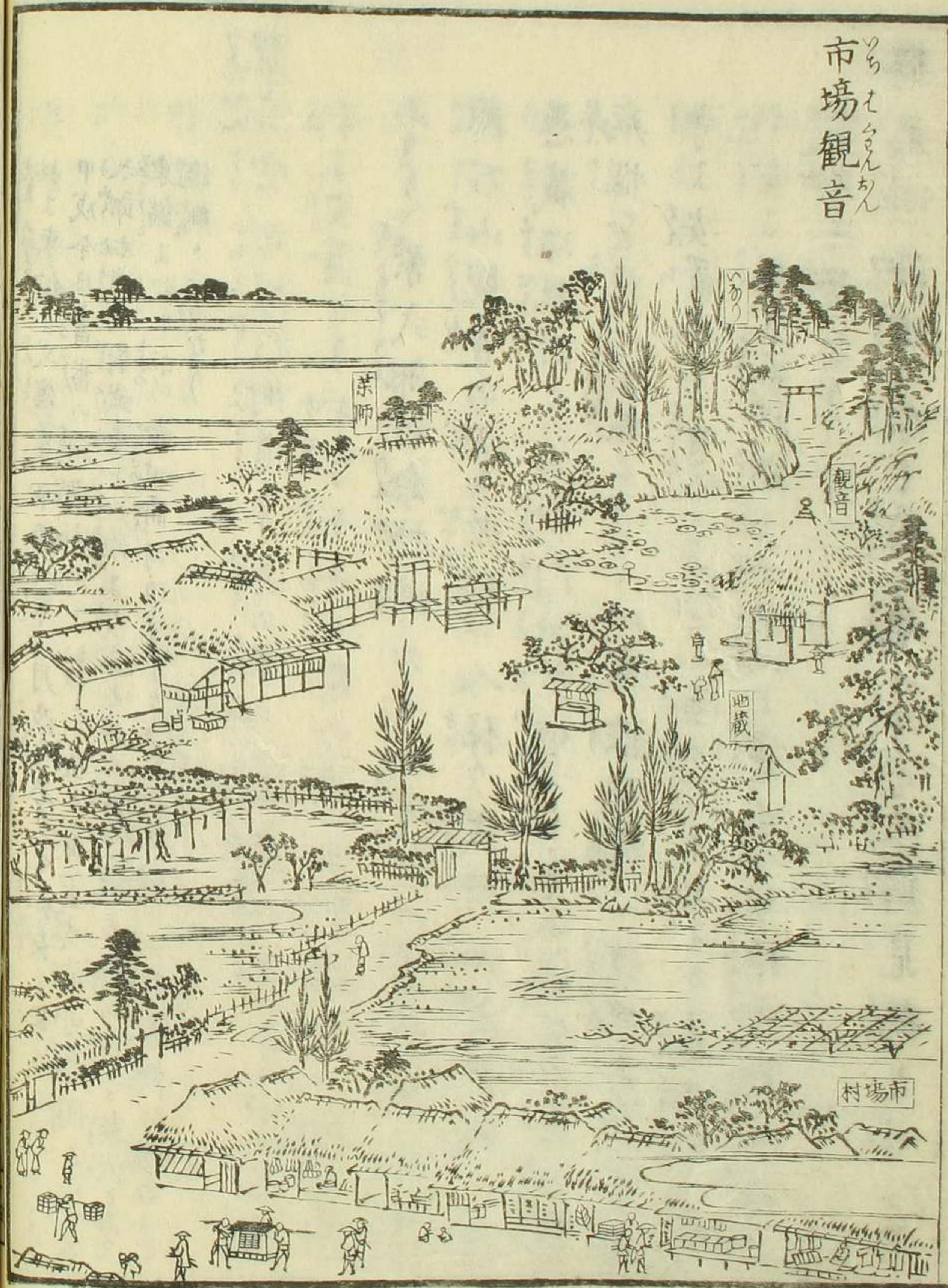
勝福寺舊址 其廢跡今知るべし然る南徳望陀郡奈良
輪邑の東坂戸市場と号する地は坂戸明神と稱す俗
社ありて其社前は一口の梵鐘を懸る銘は武州河崎庄内
勝福寺とありけり弘長三年癸亥二月八日大檀那禪定
比丘十阿及ひ壹岐守泰綱等名を注せり按は乱世の
頃陣鐘杯は棄ひ取られしより其地はありあらんを

按は東鑑は文應二年辛酉此年二月改元ありけり弘長を号し五月十三日
甲戌今日畫番の間廣御所はあつて依り本壹岐前司泰綱と浪谷
太郎右衛門尉武重と口論は及ふと云々然る時を鐘の聲を泰綱とあり
東鑑は記を承の壹岐前司のすなはち此泰綱は四郎高綱の甥なり
信綱は二男なり

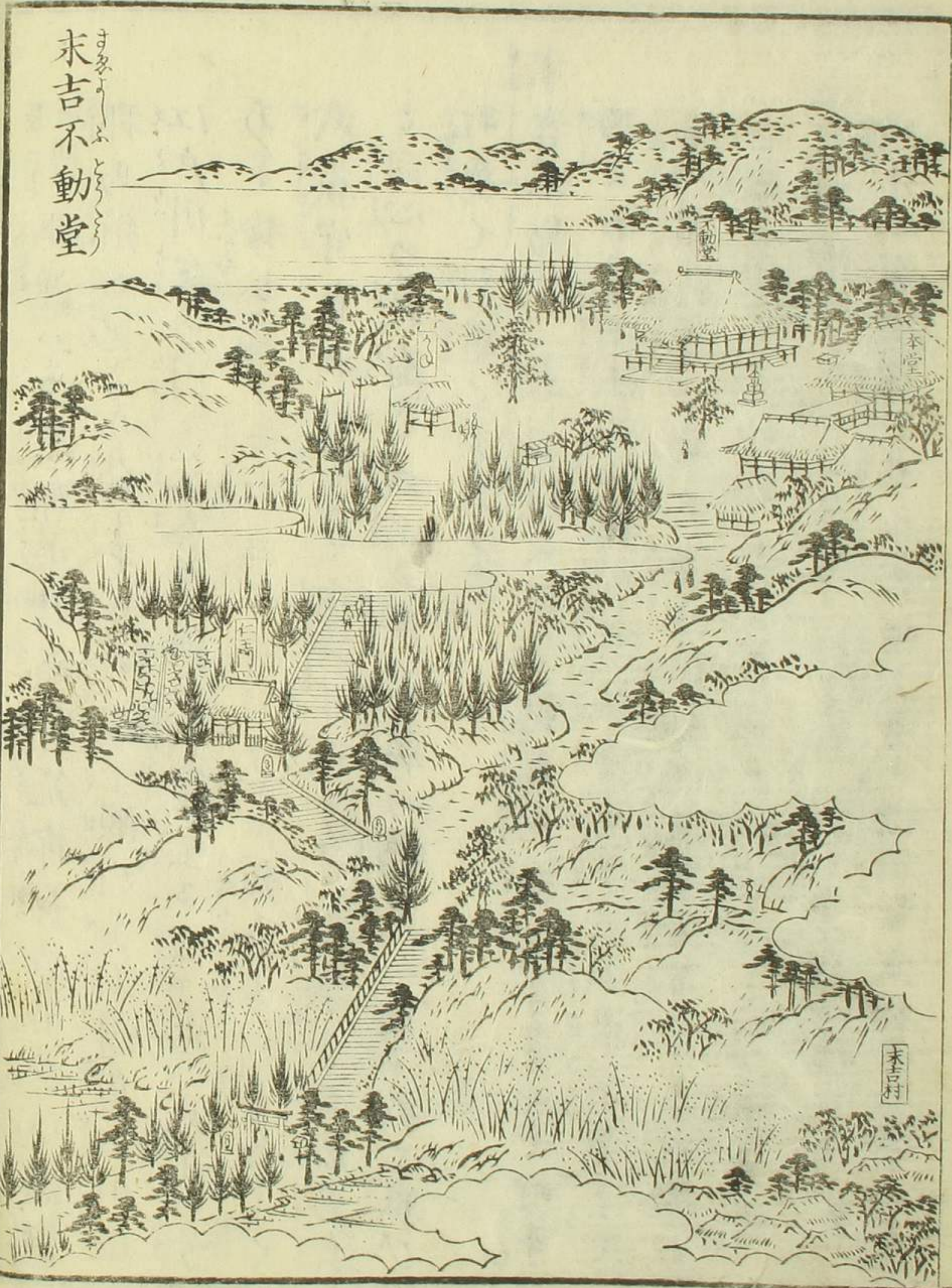
觀音堂 市場村街道より左の方一心山專念寺なり淨
刹は安置せり本尊千手大悲の像を寛朝の作御丈四寸
ありて紫式部の念持佛なりと云傳ふ兼應年間近江
國石山觀音の辺は老嫗一人住り或時西國杉脚の僧
愚藏坊照西といひ沙門此老嫗を宿せし夜老嫗の
病悩を救ふを報とて此靈像を授く後故ありて當
寺は安置なりあるといへり毎月十七日申集詣の人多
本堂は掲る所は額は一心山と書せしを縁山前大僧正
雲外の筆なり

鶴見川 海道は架す所の橋の号し又鶴見橋と名

市場観音



長二十
七間 水源ハ多磨郡小野路都筑郡長津田及ひ橋樹
郡馬絹の辺より發して恩田川早瀬川矢上川鳥山川佐
江戸川等の川々落合ひ鶴見村に至る故に鶴見川の号
あり梅松論小元弘三年五月十四日鎌倉方討ふと
武蔵守貞将大御あて向ふ下総より八千葉介貞胤義貞
と同心の義有る攻上る間武蔵の鶴見の辺に於て戦ひ
打負て引退くとあり
末吉不動堂 末吉村あり鶴見邑海道より廿七町斗
西より明王山不動院真福寺と号ひ天台宗ありて
品川常行寺は屬を本尊不動明王を安置をその像を
坐像あり六尺餘あり慈覚大師の作といふ本堂あり
十一面観音を安んず坐像二尺斗り行基菩薩の作あり仁王
門の額真福寺と書せし増上寺大僧正智堂和尚の書あり



末吉不動堂

秋田城介義景旧館地 其地今ある處より東鑑より仁治

二年十一月四日 將軍家武藏野開發の涉方違とあり

義景武藏國の鶴見の別荘に渡御頗りて壯觀ありとあり

醫王山成願寺 鶴見村の内ふて街道より山手へ入るる三丁

斗より曹洞の禪刹にして寺尾天光寺に属し本尊釋迦

如来なり作者詳るる開山と聲菴聞大和尚なり号を

薬師堂小安まゝ所の薬師座像あり七尺斗り古佛と

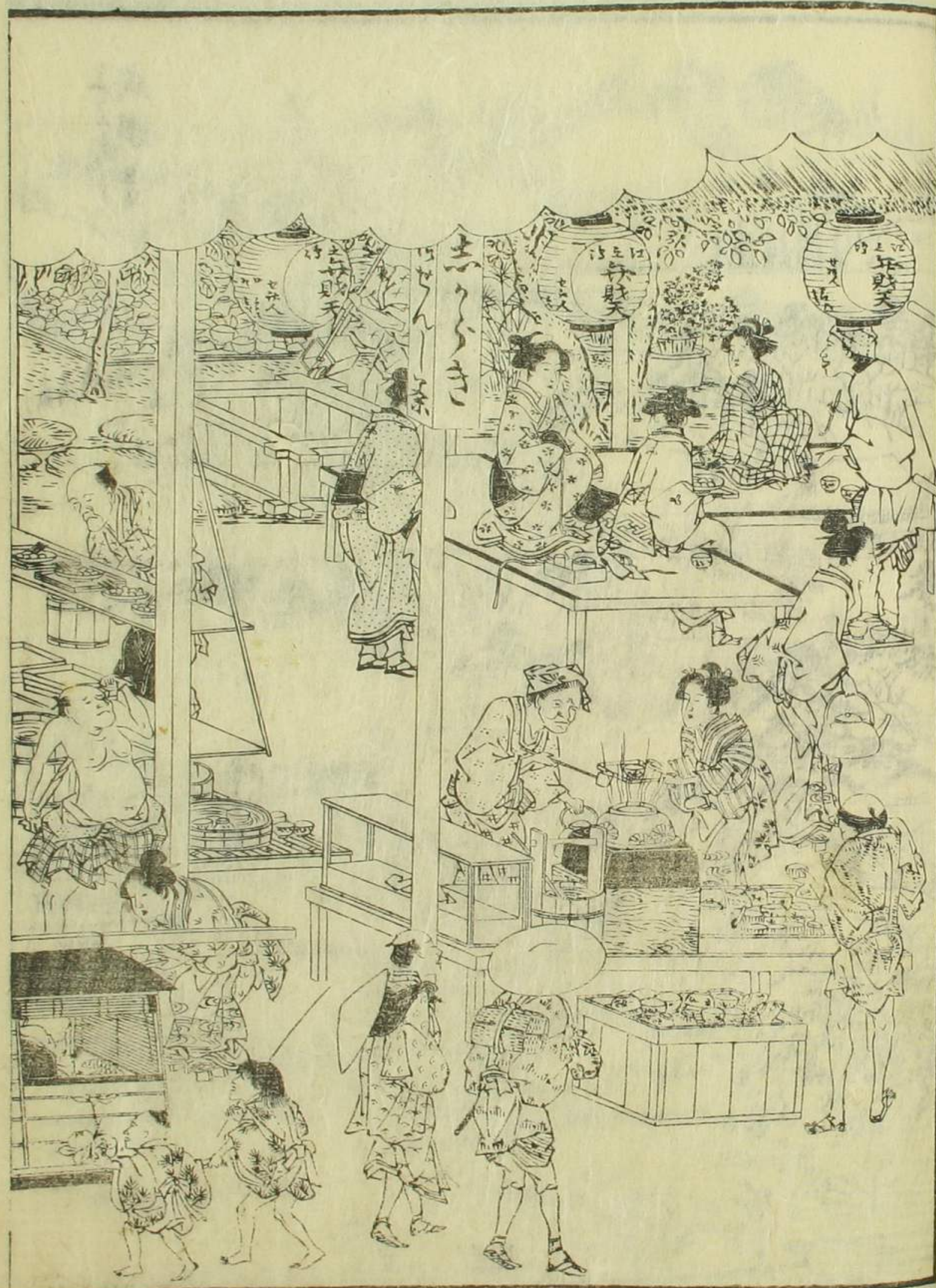
白旗八幡宮 白旗村にあり義經の靈を鎮る所と云傳ふ別當

と神奈川能満院兼帯に由来と拾遺江戸名所圖會に

詳る

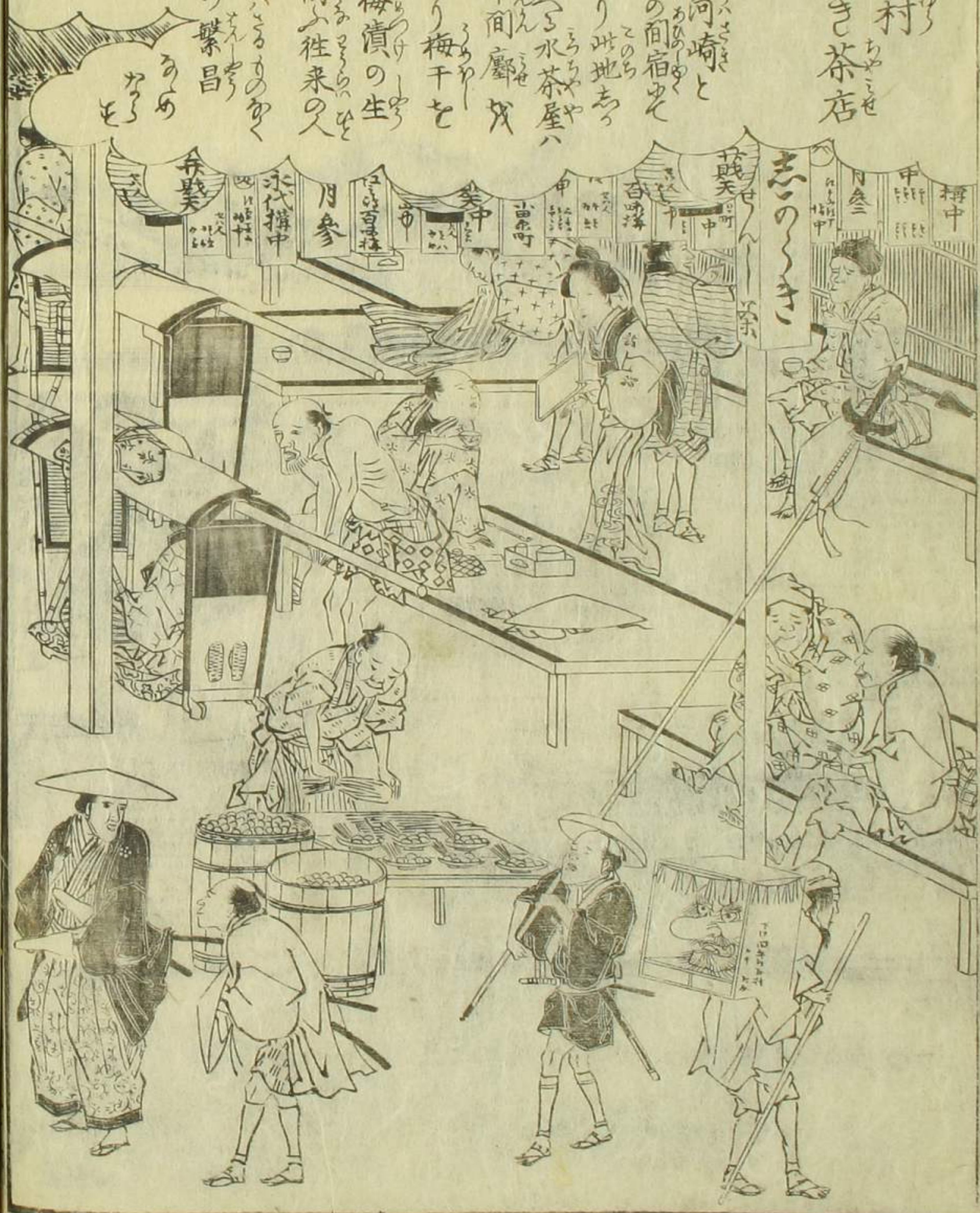
子安觀世音 子安村海道より右の方此岳にあり子生山

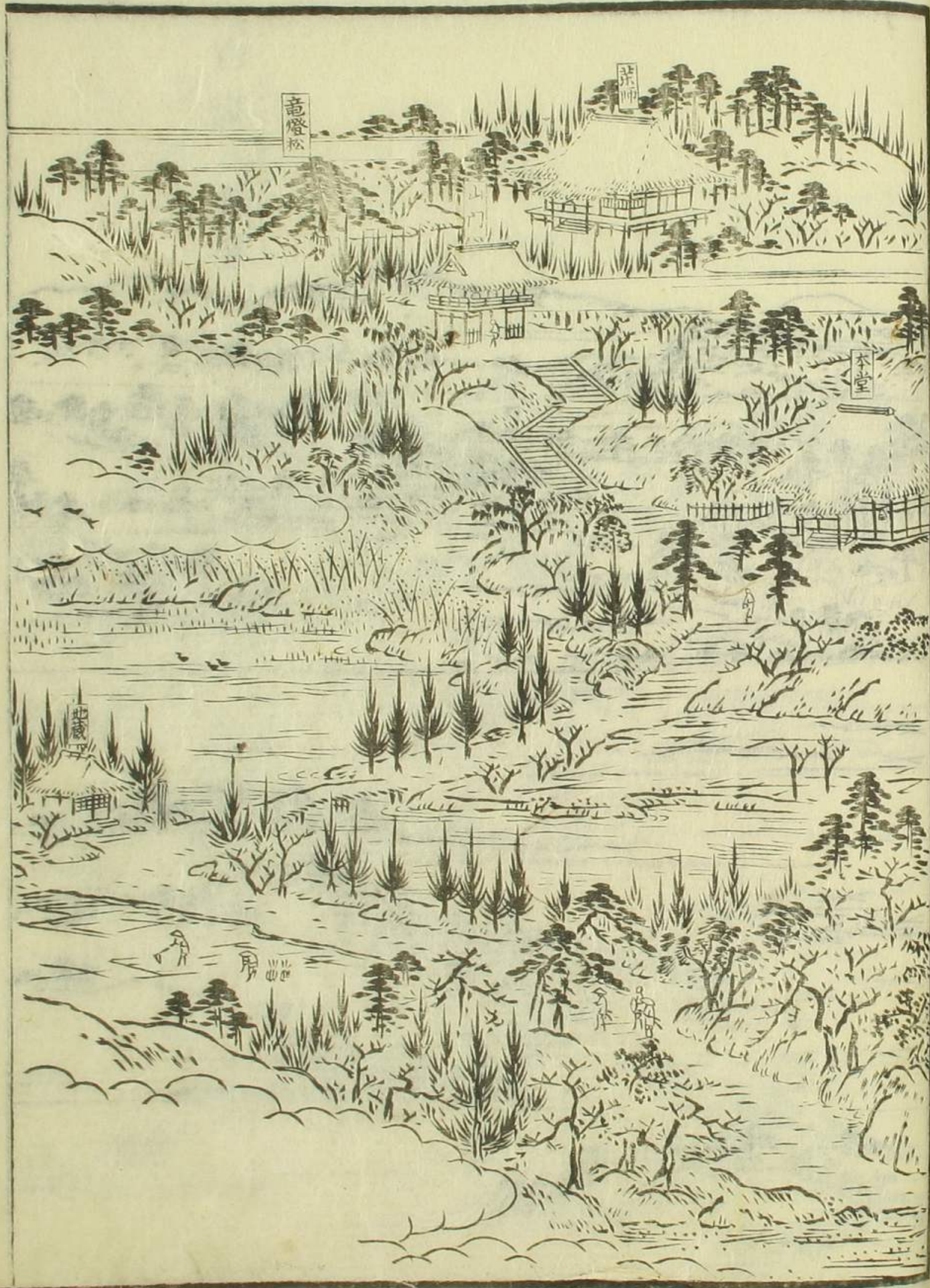
東福寺と号し新義の真言宗なり神奈川の金藏



あまむら
生麦村
あかき茶店

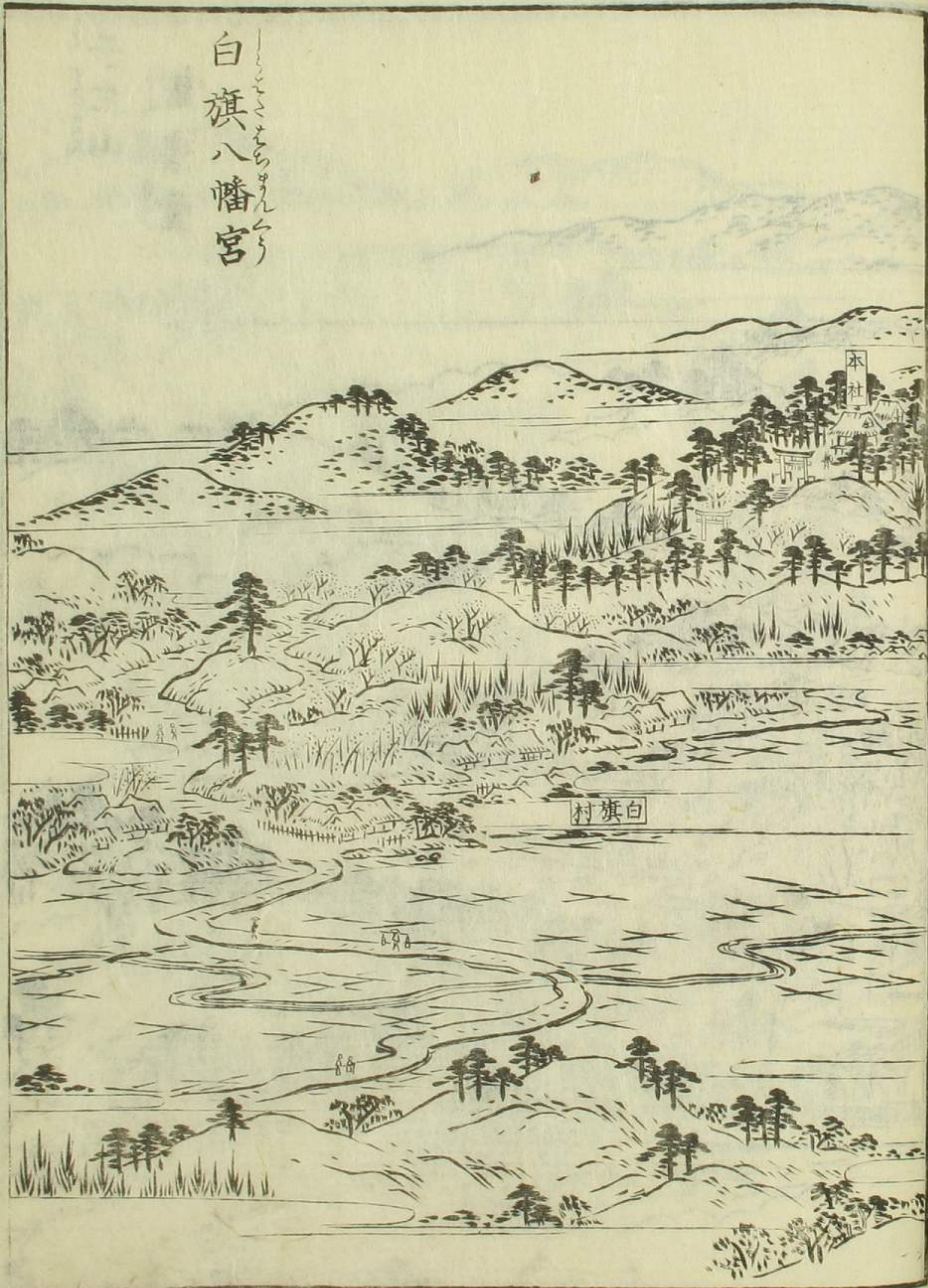
生麦ハ河崎と
神奈川の宿ゆて
立場なり此地あり
らきとの水茶屋ハ
享保年間廊下
開きより梅干と
齋き梅漬の生
姜を商人往来の人
ろふ休ハるものあり
今時の繁昌



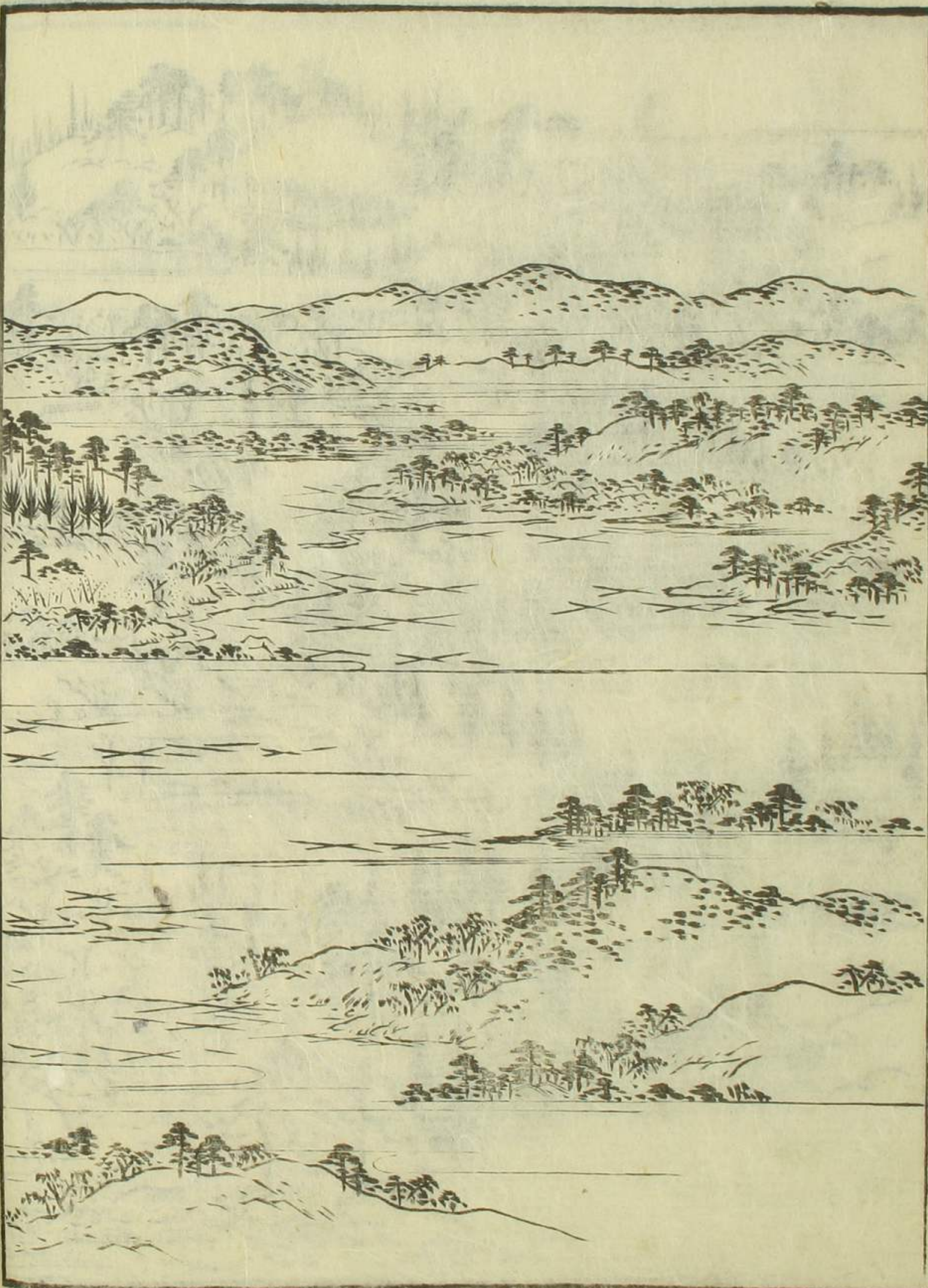


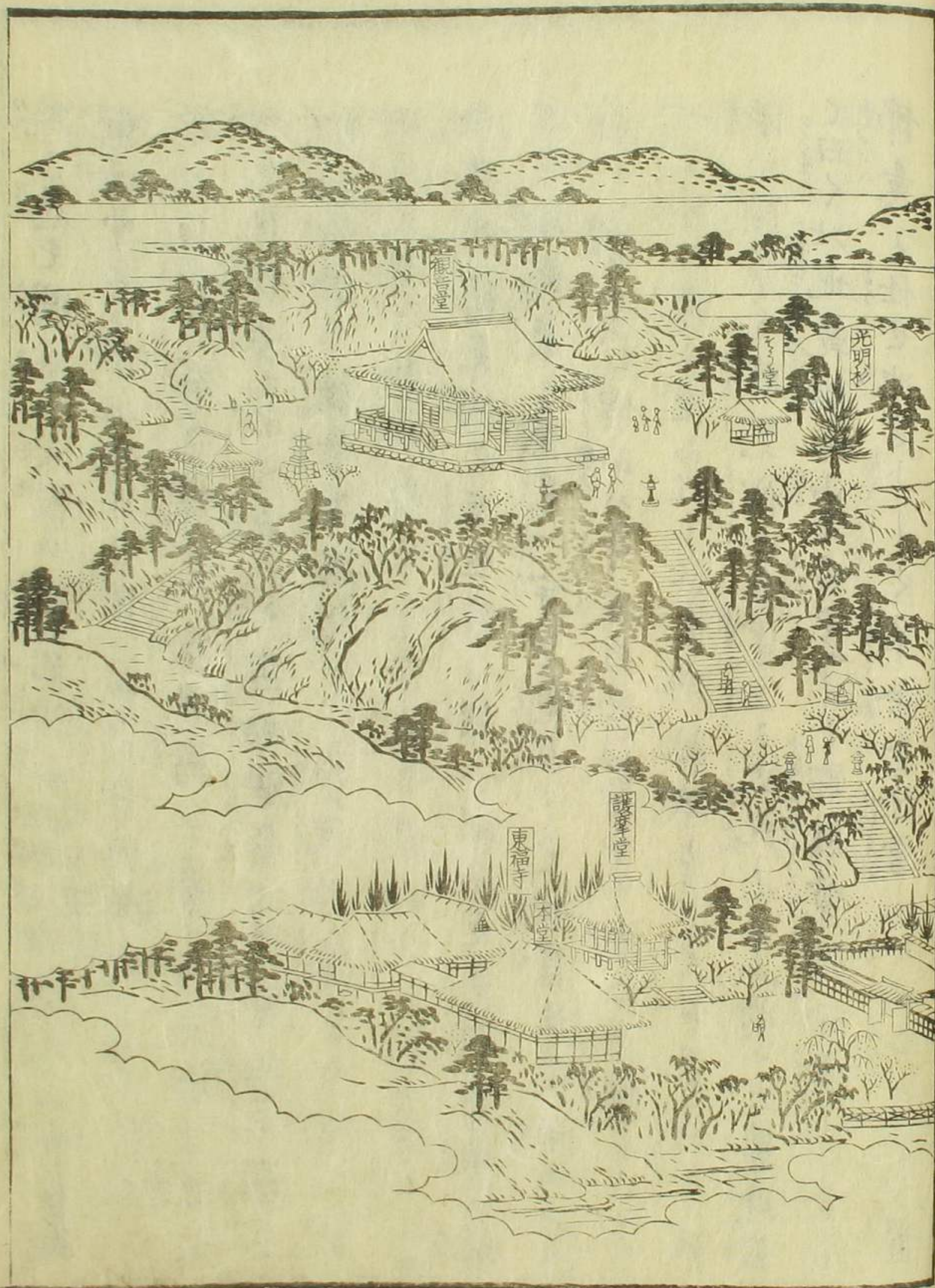
成願寺
しやうげんじ

白旗八幡宮



白旗村





子生山
観音堂

院いんは属ぞくを開ひら基もとの大祖おほいそハ勝覚僧正しょうかくそうじょうの理源大師りげんだいにの本尊ほんそんハ如意輪いじりん觀音くわんおん中ちゆう々々佛ぶつ工こう春日かすひの作つく一寸いっすん八分はつぶんの座像ざざうなり
縁起えんぎ曰いは往古むかし勝覚僧正しょうかくそうじょう一夜いちや異僧いそうを夢ゆめみるあり然しかに
件けんの異僧いそう告つて曰いは我われハ如意輪觀音いじりんくわんおんなり昔佛工春日むかしぶつこうかすひ
和州わしゅう泊瀨はくせいの觀音くわんおんを彫刻てうこくせし序ついで我われ形像けいざうをも刻くし未
世よの衆しゆうを利益りやくせよと乃すなはち然しかる我われ海中かいちゆうにある久ひさし
今武州いまぶしゅう鶴見川つるみがはの末生麥まゝまきの浦うらハ漂泊ひやくはくを是これ我有われ縁えんの地
なり汝なんぢ開東ひらく至いたる一宇いつうを創立せうりつし安置あんじせよと告つめんと
ん々ん夢ゆめさむ僧正そうじょうハ奇異きいの思おもひをか直ちに旅装りょさうし々
此生このあまむき麥まきの浦うらハ至いたるに光明くわうめい赫やく燦せんと々々ん中ちゆうに
浪なみ小こ随ずつ勝覚僧正しょうかくそうじょうの掌てのひら上うへハ出現しゆげんし々々ん時ときハ又また薩埵さつた告
て曰いは此こ地ち乾隅けんぐの山やまハ安あんまへし即勝覚僧正すなはちしょうかくそうじょう當山たうざんハ登のぼり
佛意ぶつゐハ任まかせ地ちをトと々々ん草舎くさしゃを徑營けいゑいし今いまのあんを安置あんじ

せりし時ときハ寛治元年かんぢげんねん三月十八日さんがつじゅうはちにちあり今いまの所ところ堂だうの地ちハ昔むかしより本もとより
改かへりし其その後のち稻毛いなげの領主りやうしゆ稻毛いなげ三郎平重成さんらうへいぢゆうせい
と云いふ其その後のち稻毛いなげの領主りやうしゆ稻毛いなげ三郎平重成さんらうへいぢゆうせい
なると愁うれと堂宇だううを修營しゆゑいし諸人しよじん供くむ所ところの米錢まいせんを
乞こく一年いちねんの俸ほうハ比ひし晨昏ちんこん大士だいしへ禮拜らいはいし事ことハ
恰あつも君きみハ給仕きやくしする三年さんねんの後のち其その妻つま懷妊わいじんし明年みんねん十月
一男子いちなんしを生うむ左衛門平重成さゑもんへいぢゆうせい歡喜くわんぎハ堪たむ美田みでん三千畝さんせんあ
山林さんりん方かた一里いちり有あ半はんの地ちを寄附よせつけし山やまを子安こやすと号なづし院宇いんうを
植本ちくほんと稱なづむ尔来これより薩埵さつたの威力ゐりき益えき新あらたに禱賽たうさいする者
絡繹らくりやくと々々ん絶たむ又また堀川ほりがわ帝皇子ていみこハはと々々んを愁うれへ
あひしハ勝栄僧正しょうゑいそうじょう勝覚しょうかくの此このがさの威ゐ靈れいを奏聞そうもんし
依より前まへ大納言だいなごん藤原道房卿ふじわらのみちふさのうぢを其その御ご祈願ごねんの爲ために
當山たうざんハ詣まてし三年さんねんの後のち後皇妃ごかうひハ妊じんしあひ明年みんねん五月
太子降誕たいしかうたんなりあはと々々ん則すなはち鳥羽院とりはのいんとなるハ此皇子このみこあり

義高入道墓



按鳥羽院八朝五年五月十六日
降敕なすり五月八日誤あり
帝宸感斜なり勅を子生山

東福寺の号を賜ふ遙の後文龜永正の間東國屢兵戦起

頂大の衰廢せしうとも大悲閣のを嚴然しあり

寺僧云今に至り寄願ある者當寺がまふ指し諸人供まふ所の賽銭を乞年
限を定め本寺は給仕と稱し誠信は祈念し給仕の報限満をまう

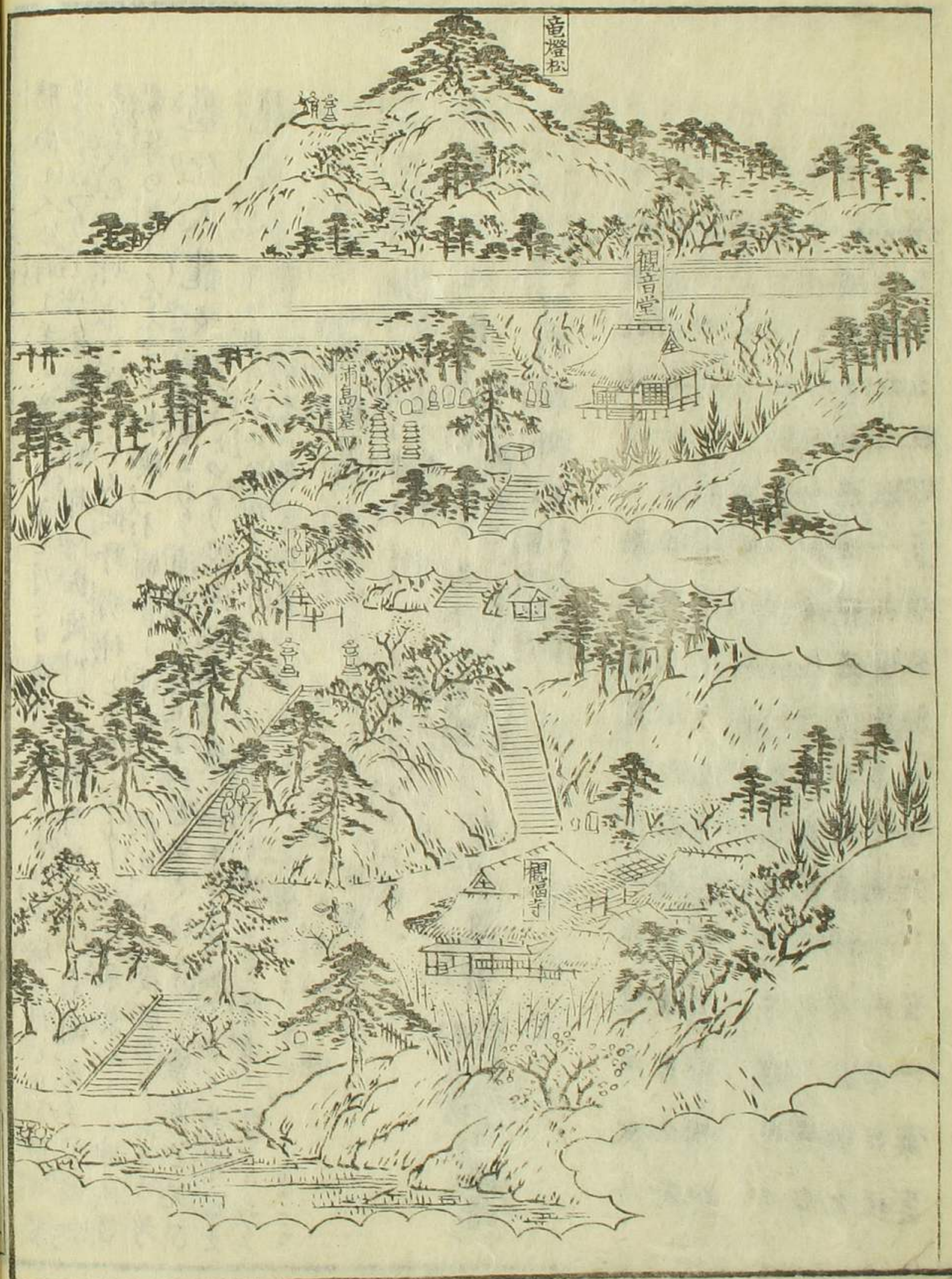
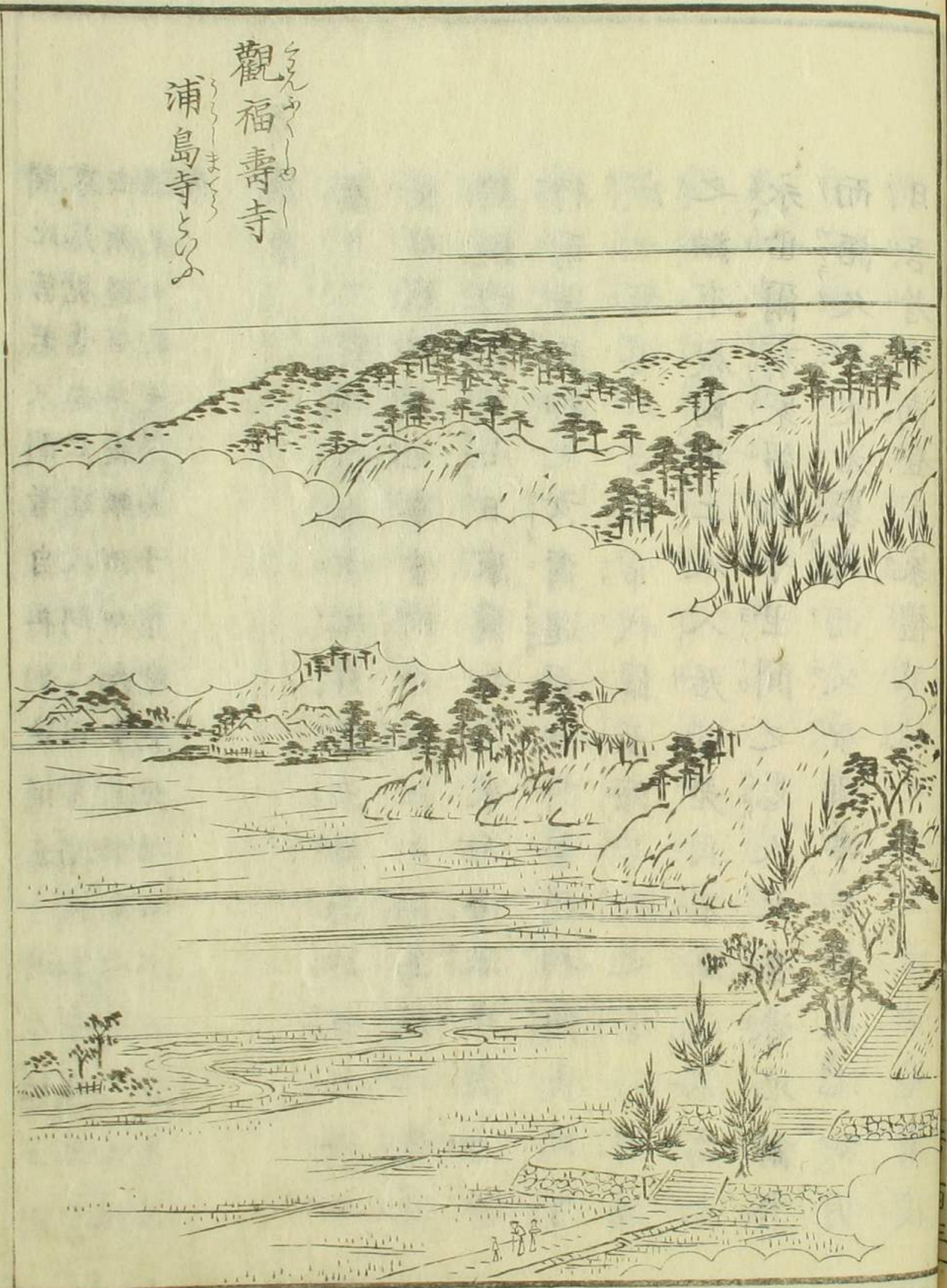
仙鶴山松隱寺 東寺尾村ふあり 濟家の禪林に

鎌倉建長寺雲外庵の佛壽禪師開創の古刹あり
禪師八建武二年二月十八日寂せり此地ハ雲外庵の來地なり
三年二月十八日寂せり此地ハ雲外庵の來地なり
座像あり二尺計あり

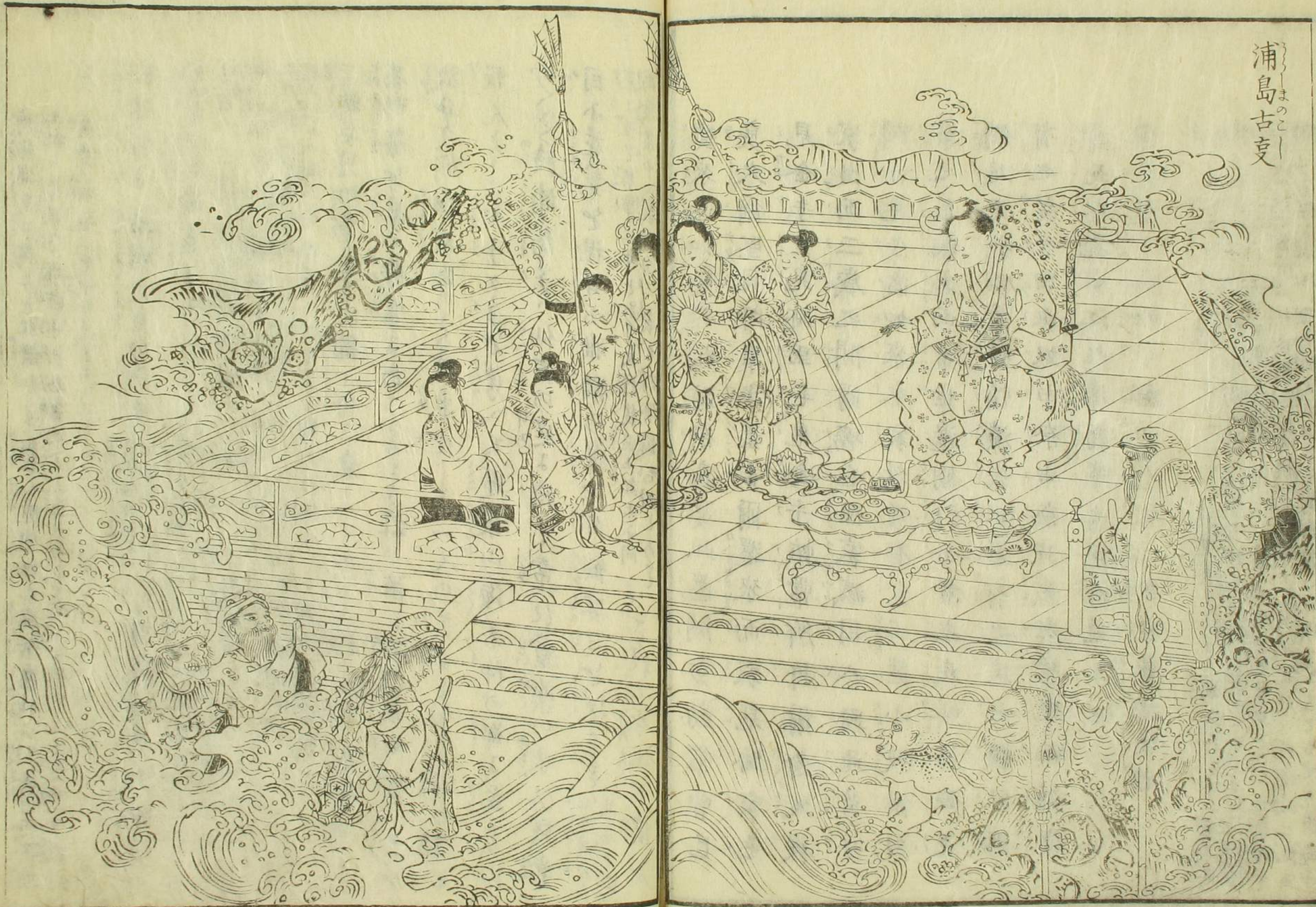
慈眼堂 松隱寺よりさ 渡し寺子門を

下里廻り二丁半計岡の上あり
佛工春日の作なり小机札所の一也
兼帶せし

観福壽寺
浦島寺



浦島古吏



傳續浦島子傳とに澄江とを按ひ仙覺律師の萬葉集抄より所の丹後風
土記に美頭乃睿能守良志麻之古とありて云々云々のえとを水澄江
義あり九通して云あり

相傳往古 雄略天皇の御宇 丹後國與謝郡管川

の人水江浦島子といふあり

云々云々の傳其子浦島太郎といふありと云々古書浦島子と作る寺記の
或ハ太郎とせり續浦島子傳は浦島子何色の人ありと云々蓋上古の傳
風土記ハ日下部百等々祖中々箇川の島子と云々及水江浦島子云云

一時七月の事なる獨小舟に乗し海上釣し靈龜を得たり

其形勢と見ふ尋常はあらずと云々一人の美女とあり前の恩と

放ち川決辰ありと彼龜化し一人の美女とあり前の恩と

報んとく島子とて携へて蓬萊山海若神の都に至るぬ

かく後浦島子ハ仙室の筵に侍り常に靈藥の味ひ哉嘗

目小花麗を視目ハ雅樂の樂を聞觀宴日を送る

萬葉集ハ居事三年とあり又丹後風土記上ハ同くされ本土を懐か

心起し獨二親を意成ハ神女ハ此を告ぐれハ神女ハ島子

別を意慕をとも竟止るき色も見え孫ハかひなく

一箇の玉匣と與へく云く子遂ハ賤妾と遺れをく再ハ

此神仙境へ来らんとありハ必此匣の裏を開きえりありれと

島子とて約しとり事外喜ハ彼匣を受傳へてと

分ち辞し去る頃蓬嶺の仙都と云々と云ハりハ與謝の

舊里小飯と着ぬ

三十二代と送るとあり水鏡ハ雄略天皇廿三年と七月ハ浦島子蓬萊へ傳りて

たり云々同書淳和天皇天長二年と云々浦島子ハ云々雄略天皇の御世ハ

乙巳ハあり又雄略天皇廿三年ハ未ハあり日本紀二十二年と云々

八年ハありとされと物換り星移り家園ハ變りて河濱とあり山

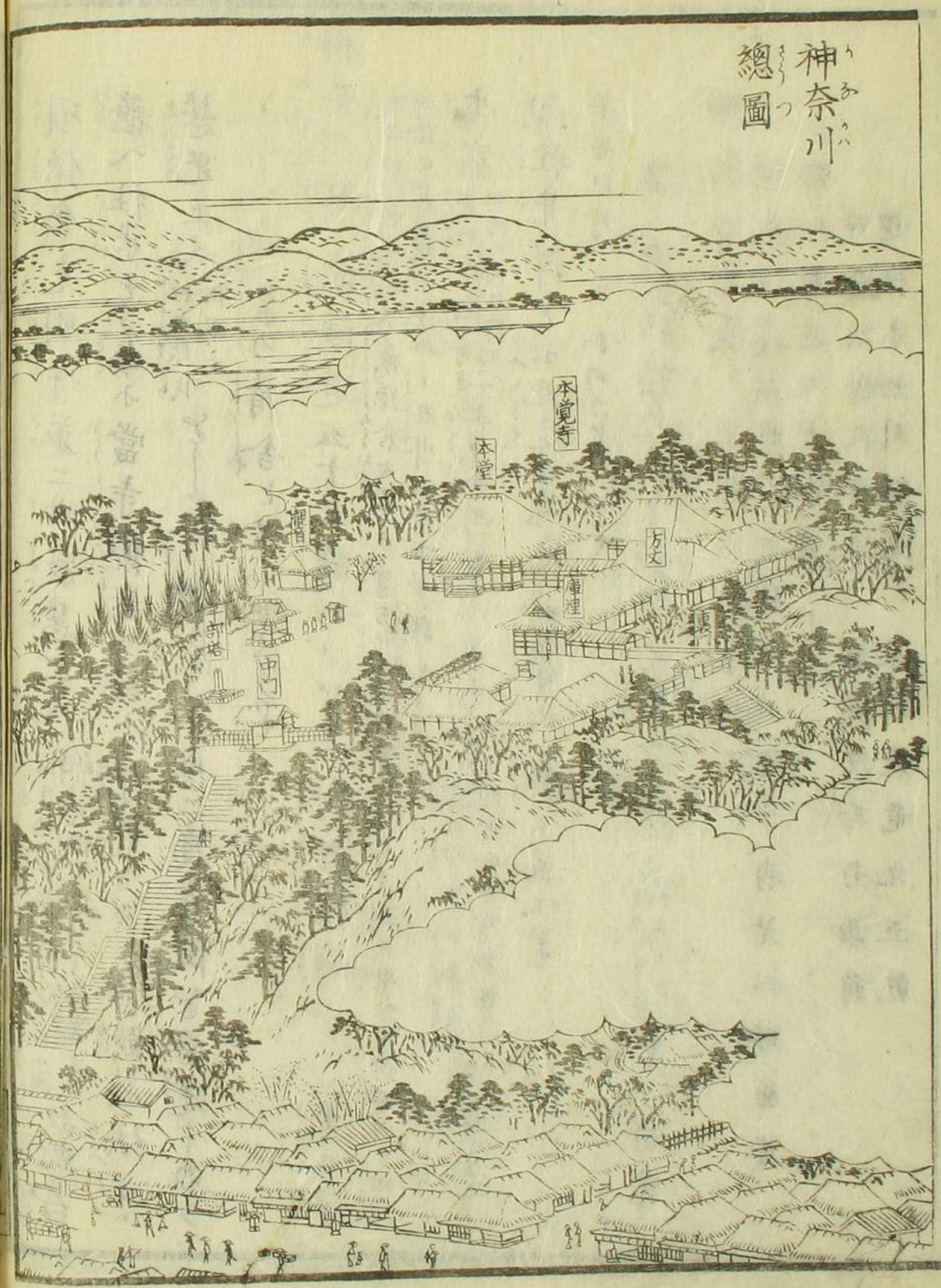
岳ハ改り江海とあり荒蕪の間邑煙を絶え舊塘寂寞とて

道路跡ハゆゆありとあり人さなりと云ハりハ惟しみ

かの驚き郷人ハ旧俗の行方と問ふ一人の翁答へく云く昔聞



平尾
惣の松



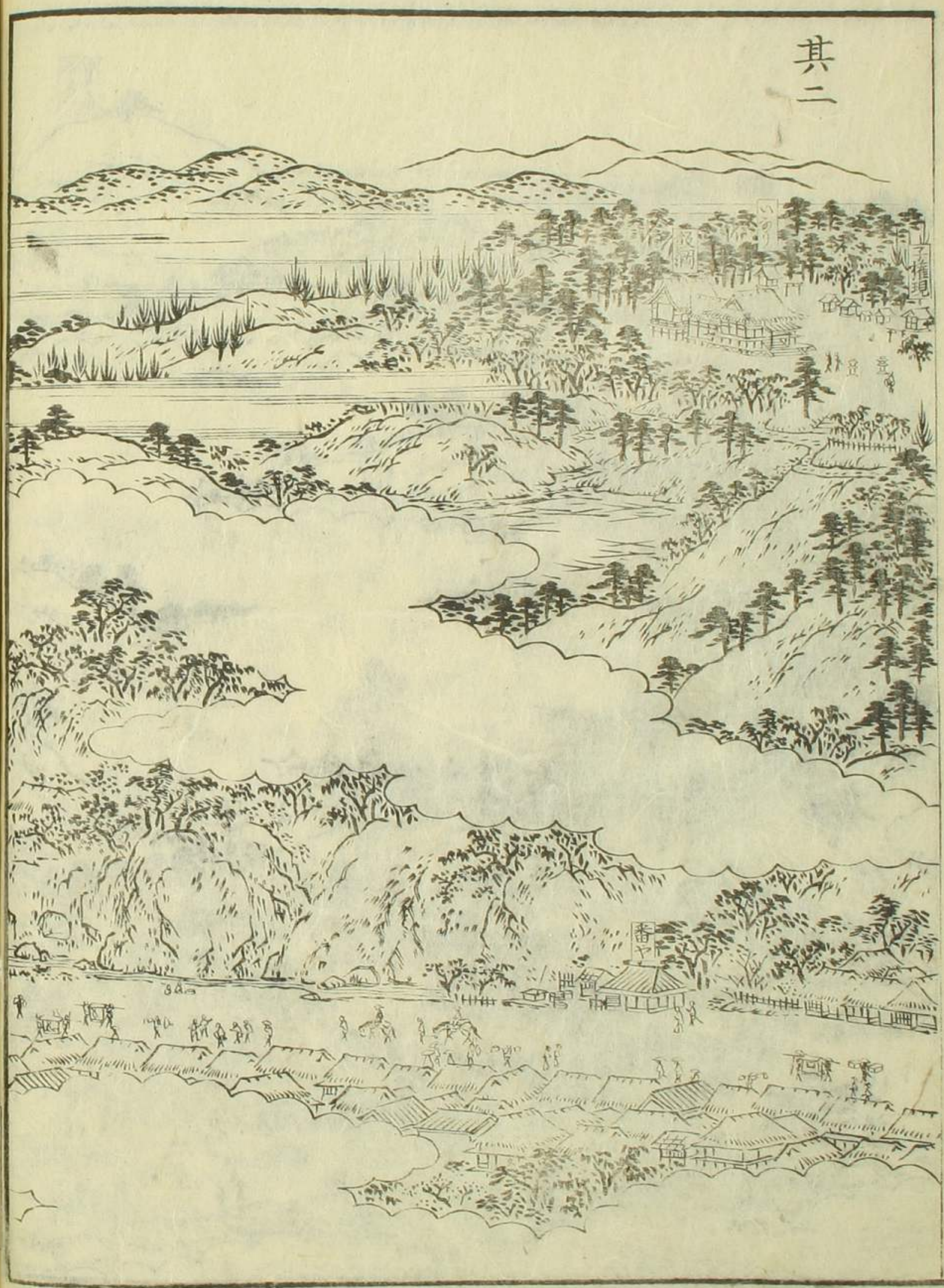
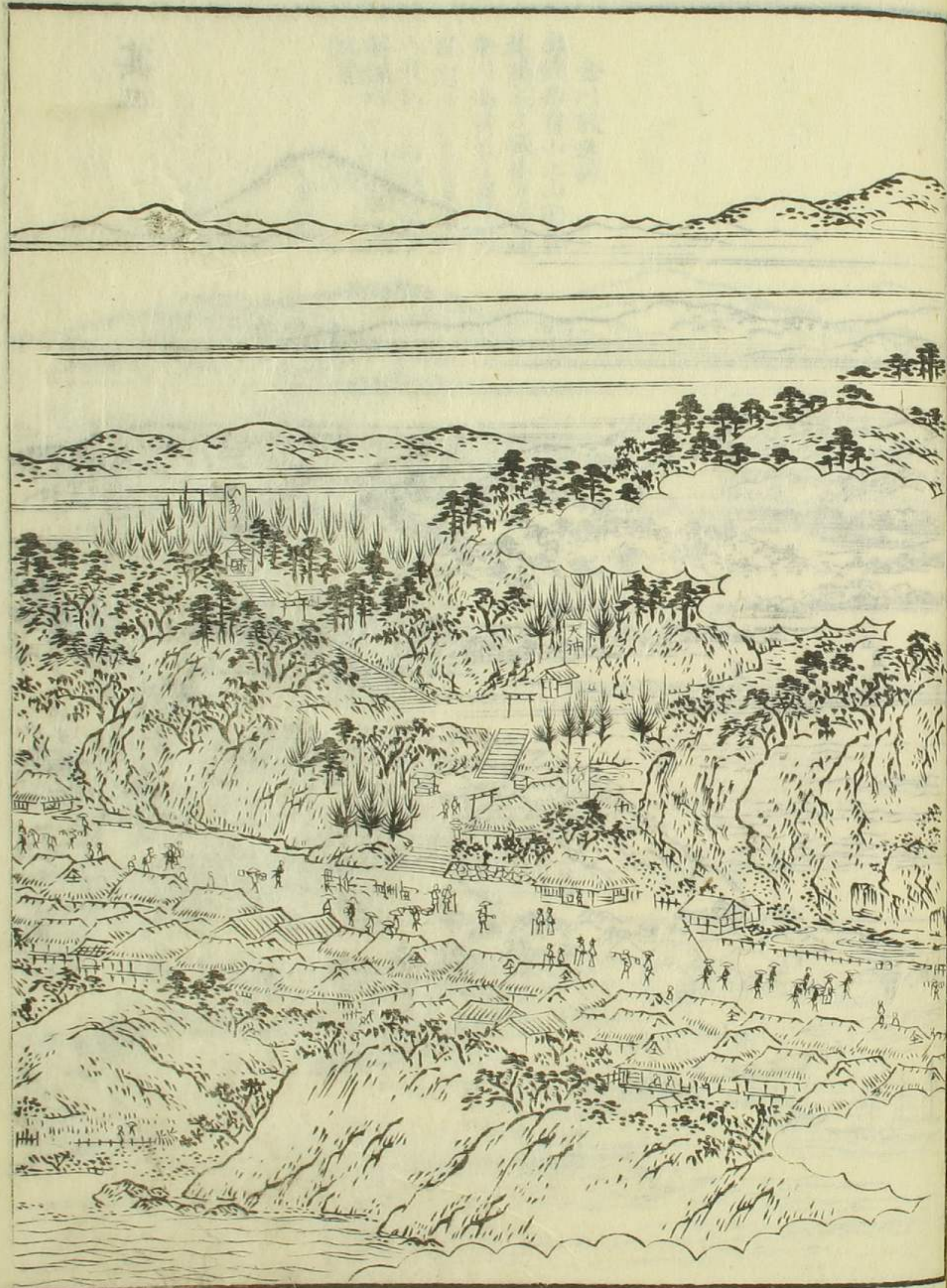
神奈川
の
惣圖

本堂

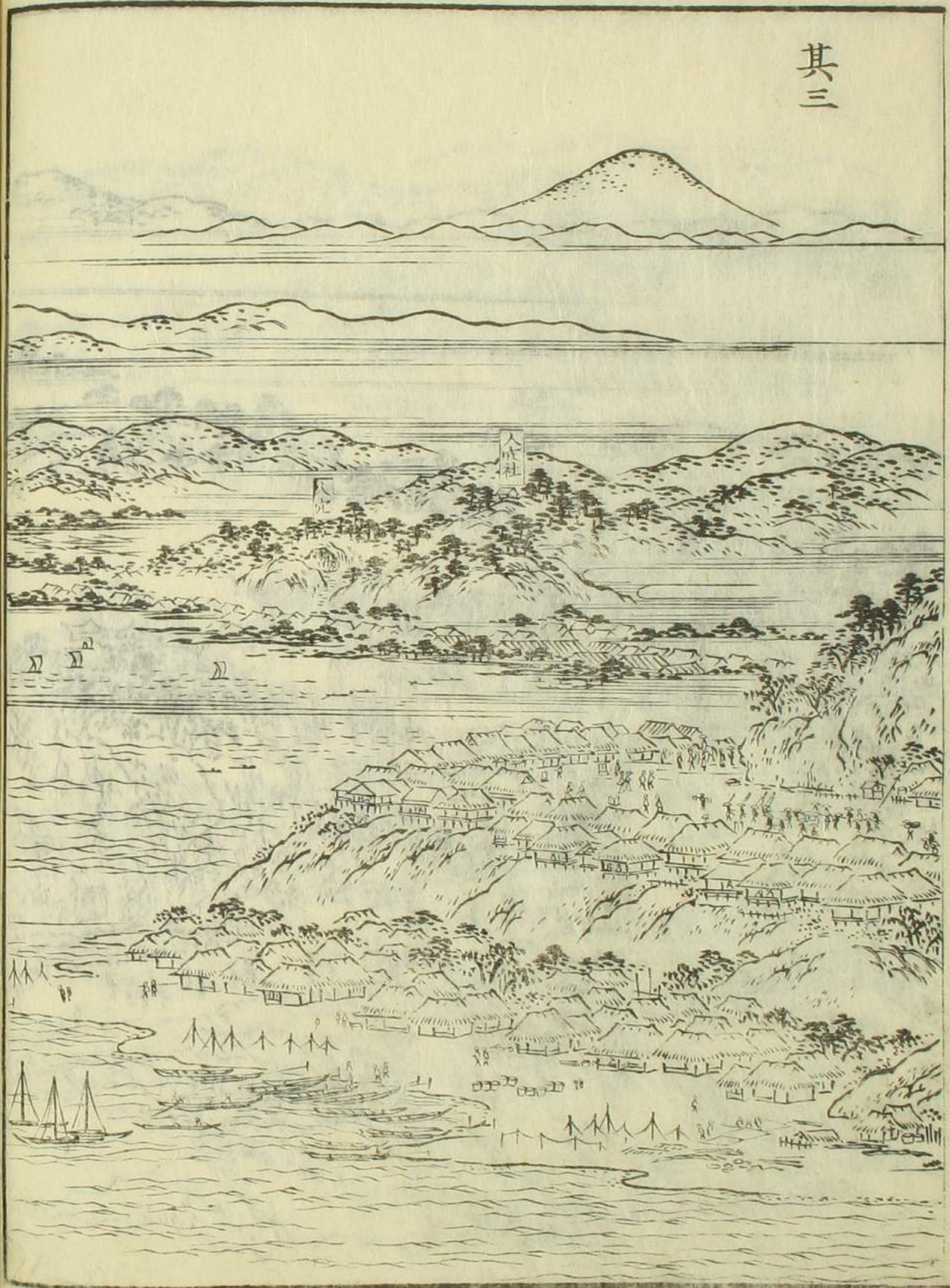
方丈

中

塔

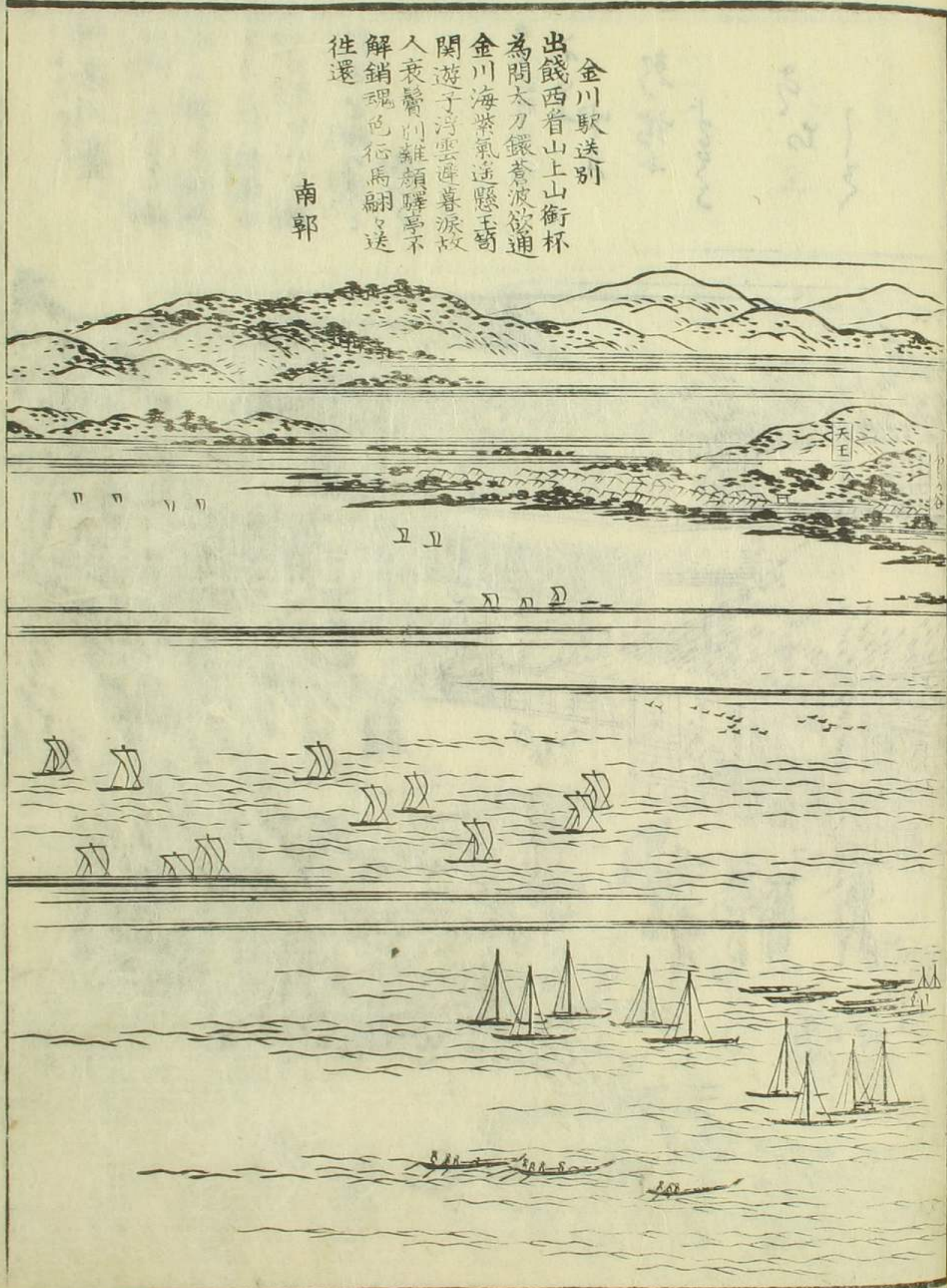


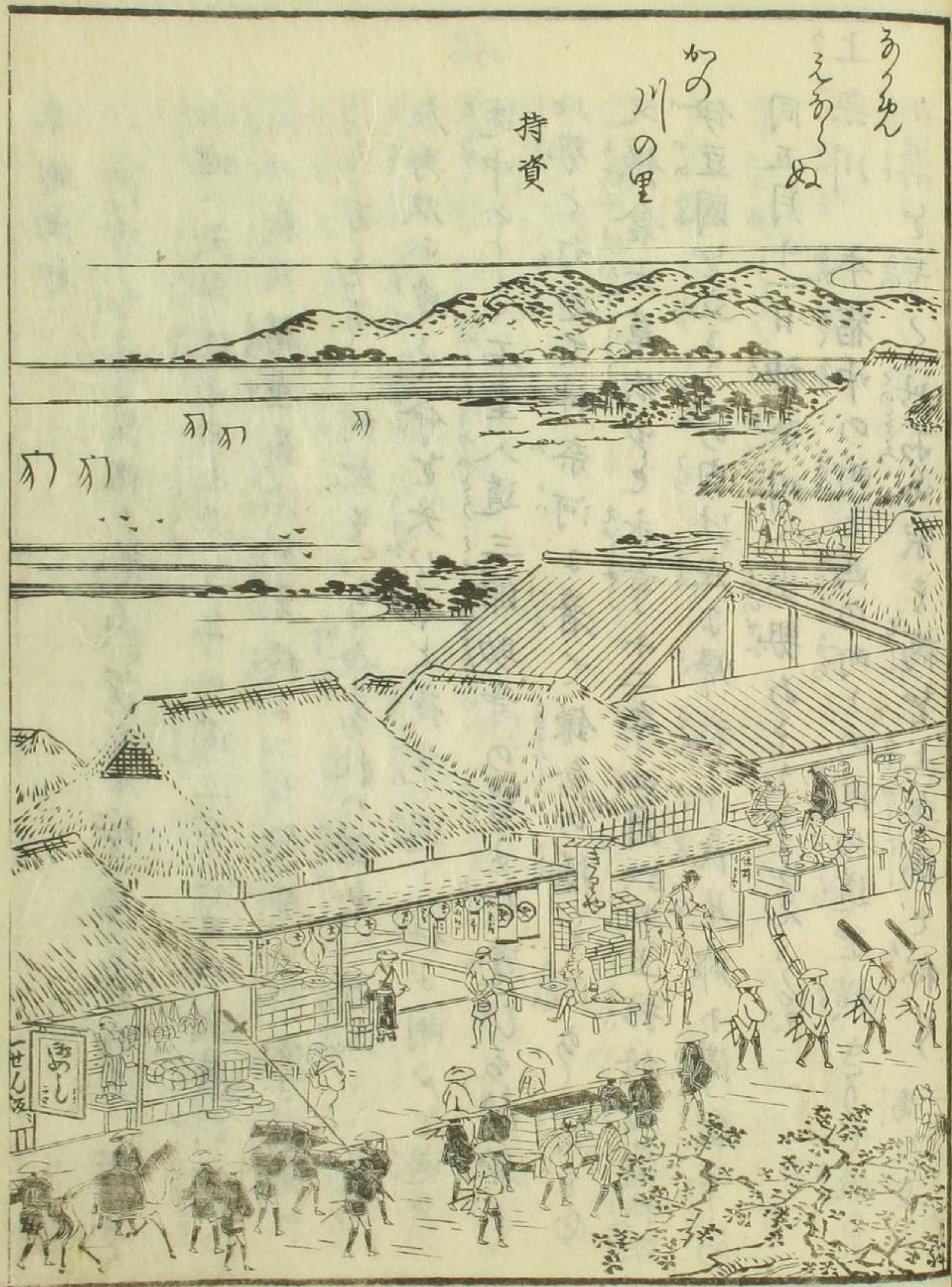
其三



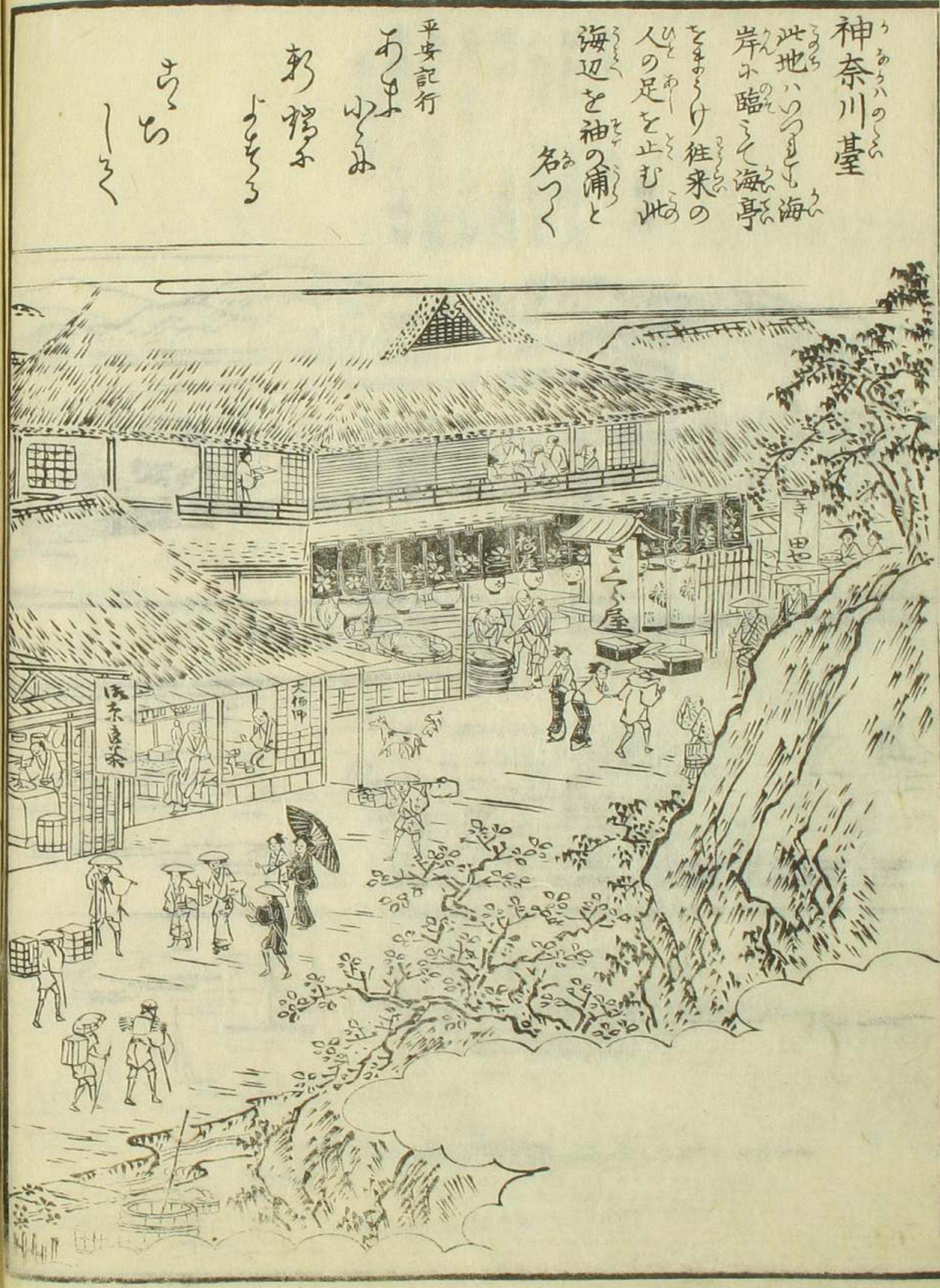
金川 馭送別
出錢西省山上山銜杯
為問太刀鏢蒼波欲通
金川海紫氣遙懸玉蜀
關遊子河雲遊暮淚故
人衰鬢別難顏驛亭不
解銷魂色征馬翻送
往還

南郭





あつちん
えあぬ
かの
川の里
持資



神奈川臺
此地ハのりし海
岸ハ臨ミ海亭
をまうけ往来の
人の足を止む此
海辺を袖の浦と
名づく

平安記行
あま
しん
新橋
トコ
あち
しん

京都紀行

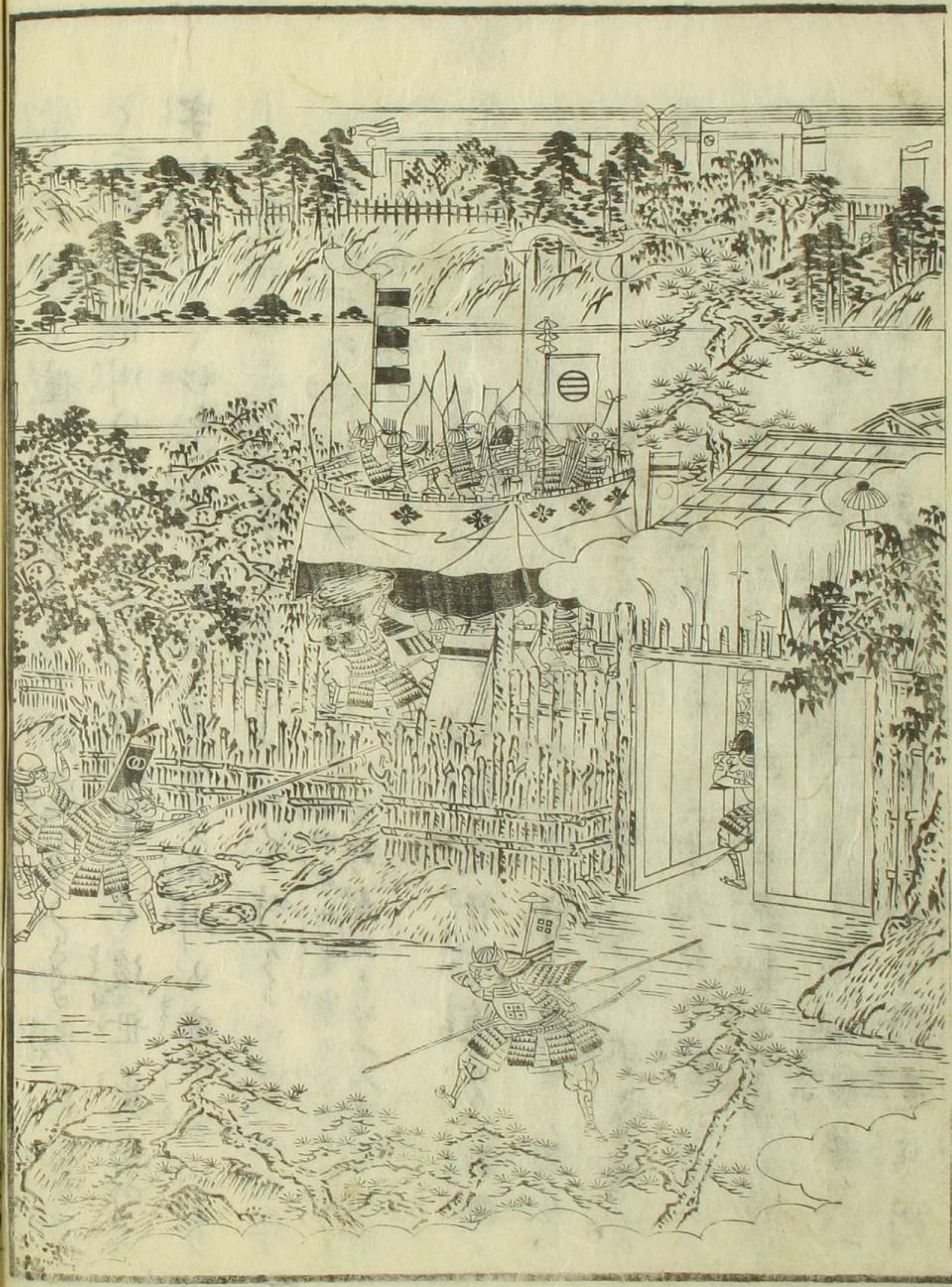
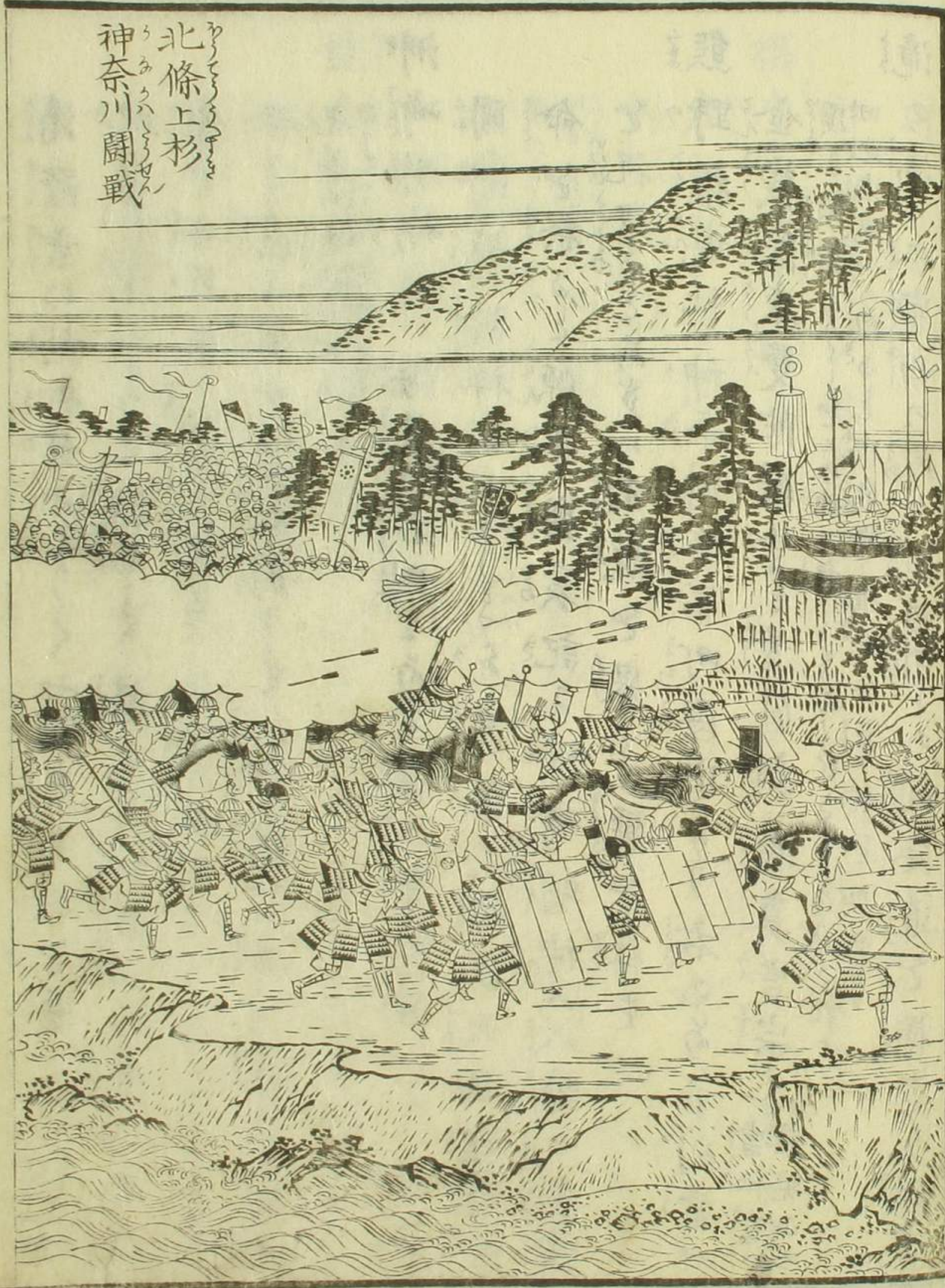
浮世を渡る流波を人をもつてあふゆるゆゑに

澤庵

此地ハ大平記ゆゑ正平七年の閏二月廿日の武蔵野合戦ハ
 新田義興殿屋義治兄弟終ニ二百餘騎ハ打たされ落行
 左馬及小逢々命を失ひ夜半過る程ニ開戸を過りハ
 途中中々石堂入道三浦助等の勢ハ行違ひあひ馳る
 此勢と打連て神奈河ハ著て鎌倉の様を問ひ由りゆ
 又鎌倉大草紙ゆゑ永享十二年四月六日上杉修理亮持朝
 伊豆國と立く山の内比庄ニ帰恭一長尾郷ハ滞留せしり
 同五月十一日神奈川へ出勢ありしゆゑに
 上無川 本宿中の町と西の町との間の道を横きりて流る
 小溝と号く此所ハ架も橋と上無橋と称す
 常ハ水涸く僅の小流なり水源定ならずは上無川
 と云則神奈川の地名の興る所以中々後世災志の二
 字と略し々々糸川と云るなり品川も亦下無川あり
 是も毛志の二字を省き々々かく呼る由寛永五年
 齊藤徳元の紀行ふゑにあり
 小田原北条家の分限帳
 矢野彦六といふ人武州神奈

海運山能満院 満願寺と号す本宿荒井町道より右側ニ
 あり古義の真言宗ゆゑ鳥山三會寺ハ属せり開基ハ
 内海光善といふ人なり開山ハ重運と号す本尊虚空
 藏菩薩ハ海中より出現ありし三寸九分の靈像あり
 相傳正安元年己亥八月十三日此地の漁者ニ内海新四郎
 光善といふあり此日海中小網を沈し此靈像を拾
 あり然ハ本善光善の一女子ニ托し之曰く我ハ是房州

北條上杉
神奈川關戰



清澄寺の嗣伽井ありて七百有餘歳を歴り今此地の有縁ゆかりに彼あり移るは汝堂宇を營むて我像と安置せよ必子孫とて幸福ありとめんとなり依る直に當寺を開創して此靈像と安んずるとり

洲崎明神祠 海道の右側ありて普門寺別當より安房

命を祭ると源平盛衰記に洲崎明神ハ八幡大菩薩

を祝するともは兩説を擧ぐ疑と存也

熊野権現社 神奈川本宿町海道より右ありて別當ハ

金藏院東曼陀羅寺と号し新義真言宗之當社借ハ

頂勸請ありと此地へ移しとありとありとされ

滝の橋 本宿西の町と滝の町との間海道を横きり流る

川は架と此橋下の流をを滝の川と号く故ふあり水源を

七八町西の方堰村と云より祭する所の流あり

橋本宗興寺橋より向ふの川添平町より西の方道より

左ありて曹洞の禪宗より同所本覺寺に屬せり

本尊釋迦牟尼ハ定朝の作なり一尺をより此座像あり

此中古ハ山上觀音堂五層堂前の清泉ハ寛永年間

大將軍家御上洛の時此地本宿小湊旅館を儲せられ

一頃沙茶の水小掬せられと云

觀音山 山頂小觀音堂あり故は山の号とせり宗興寺より

令せり雨ゆりて石燈尊立して寺は徳門の正中に對し

本尊正觀音の像ハ毘首羯摩天の作なり五寸九分

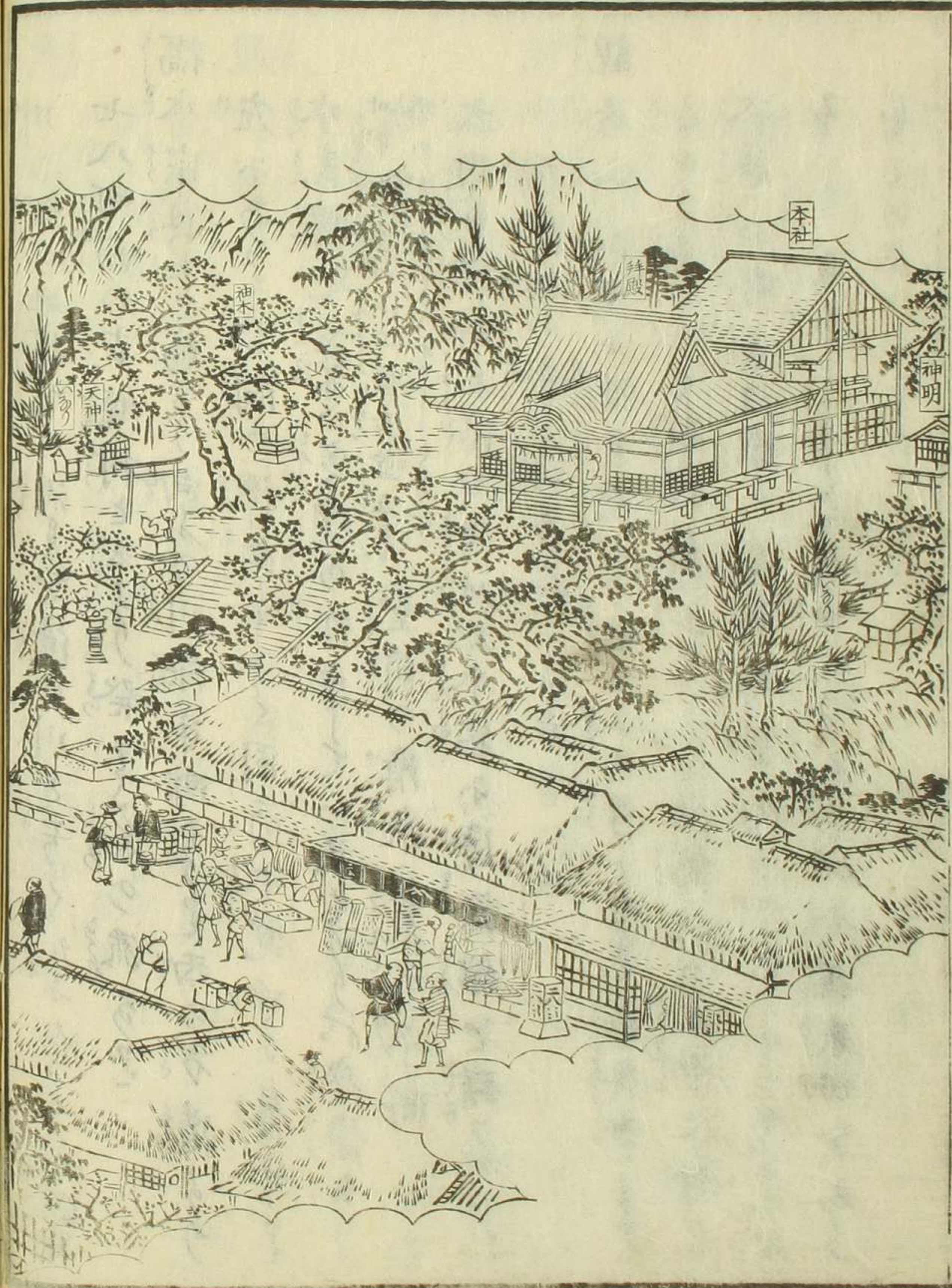
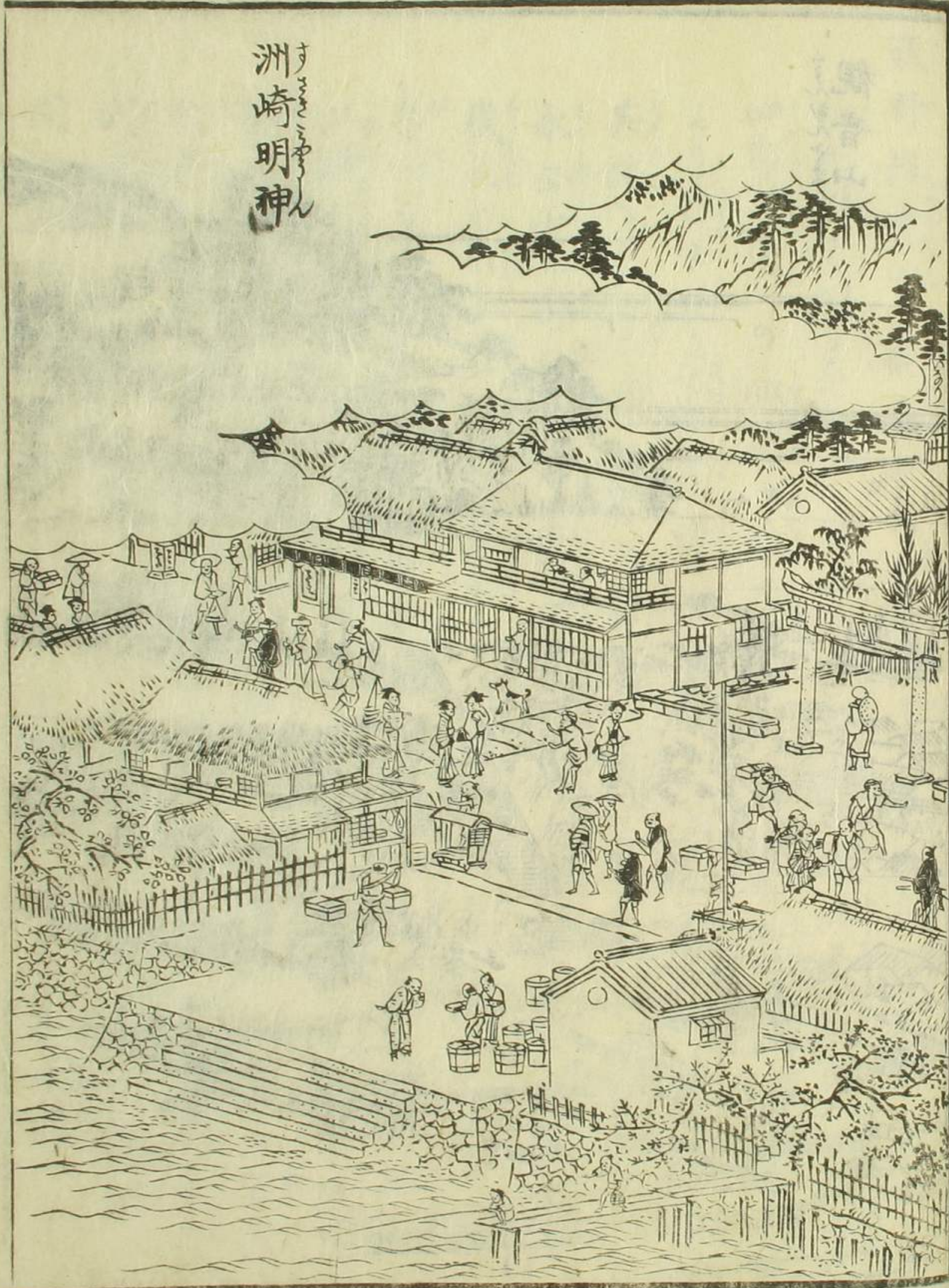
あり昔焼亡ありてその旧記を失ひぬ今其来由とあり

ととり

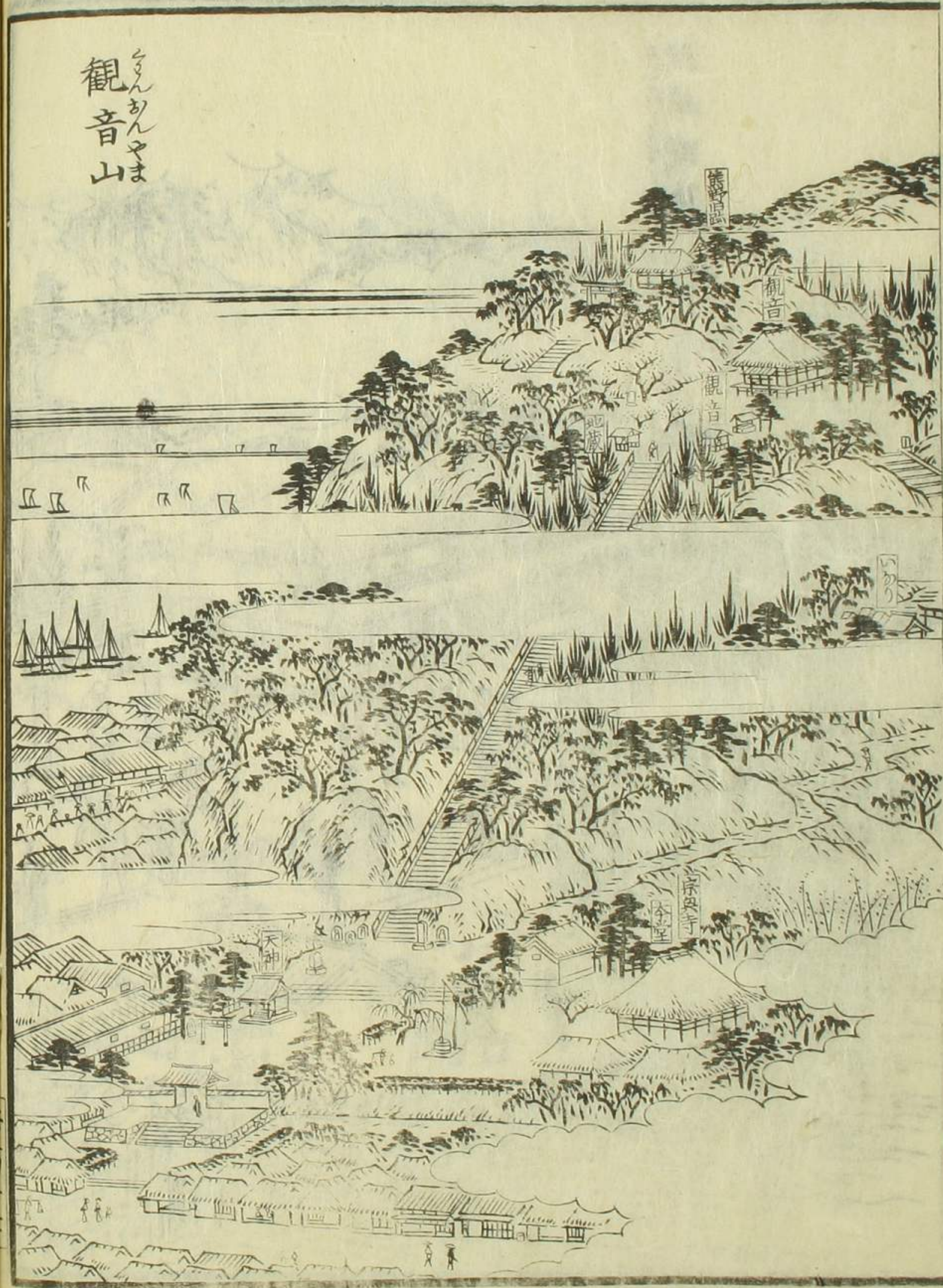
ととり

ととり

洲崎明神

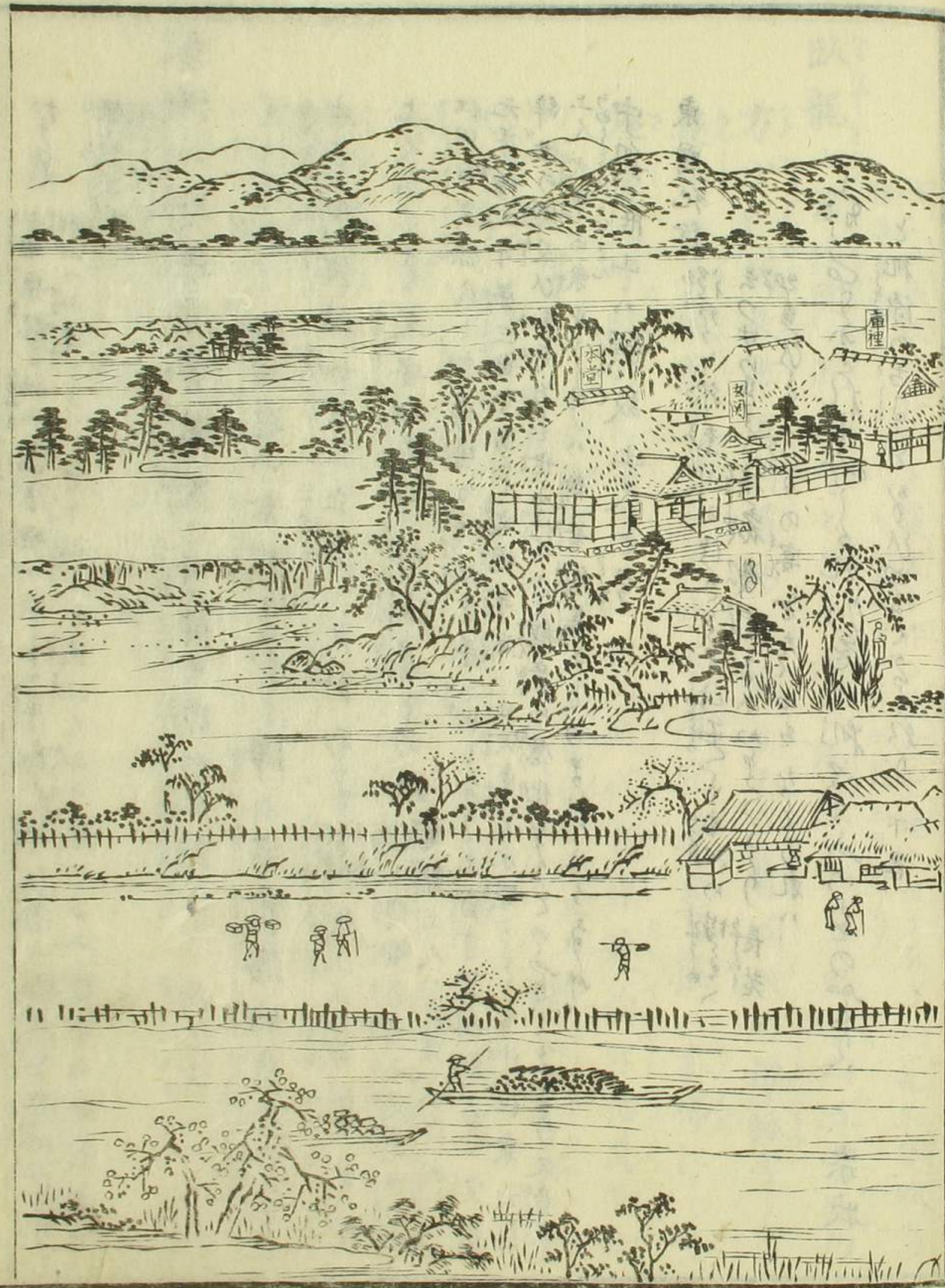


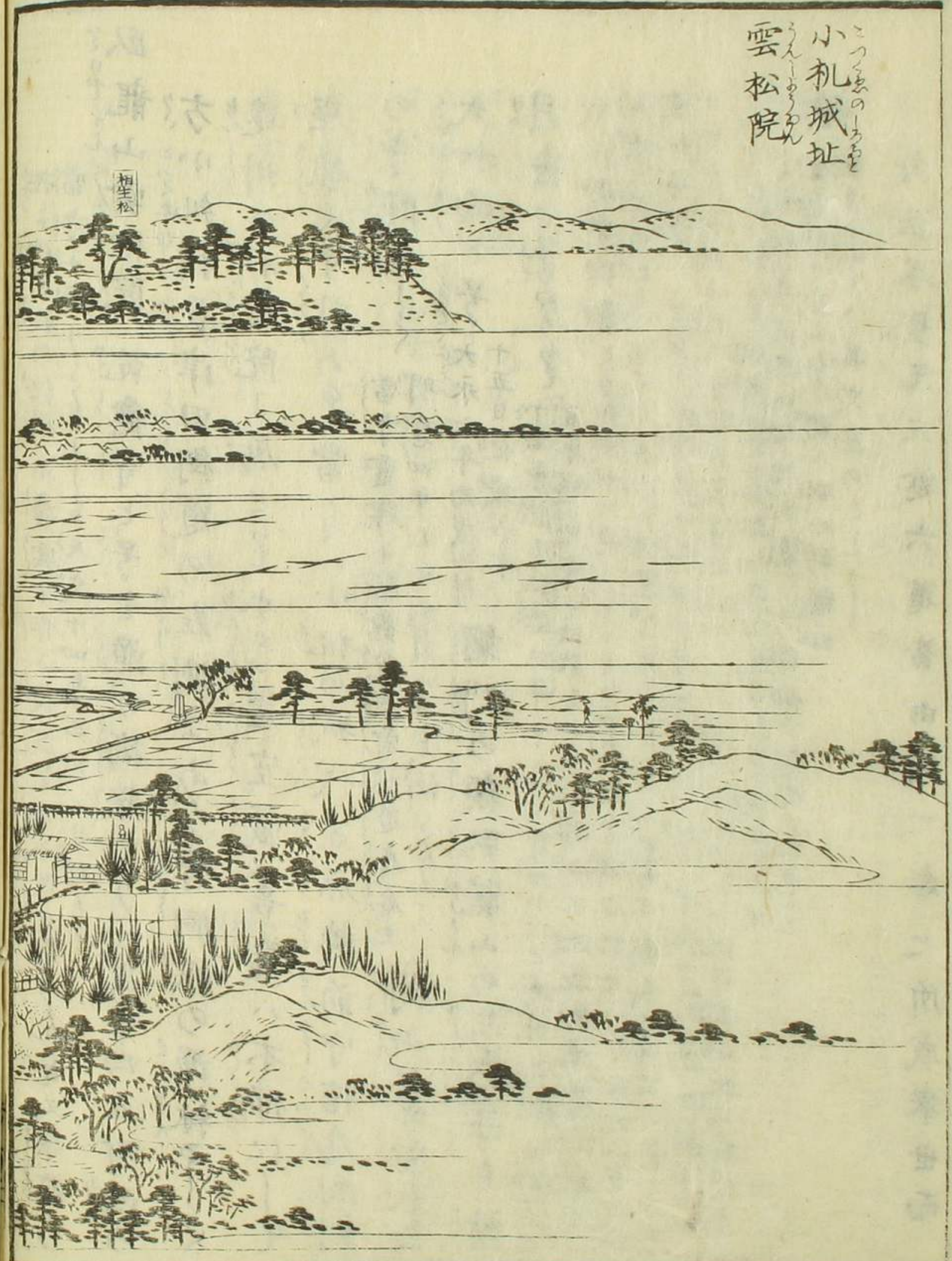
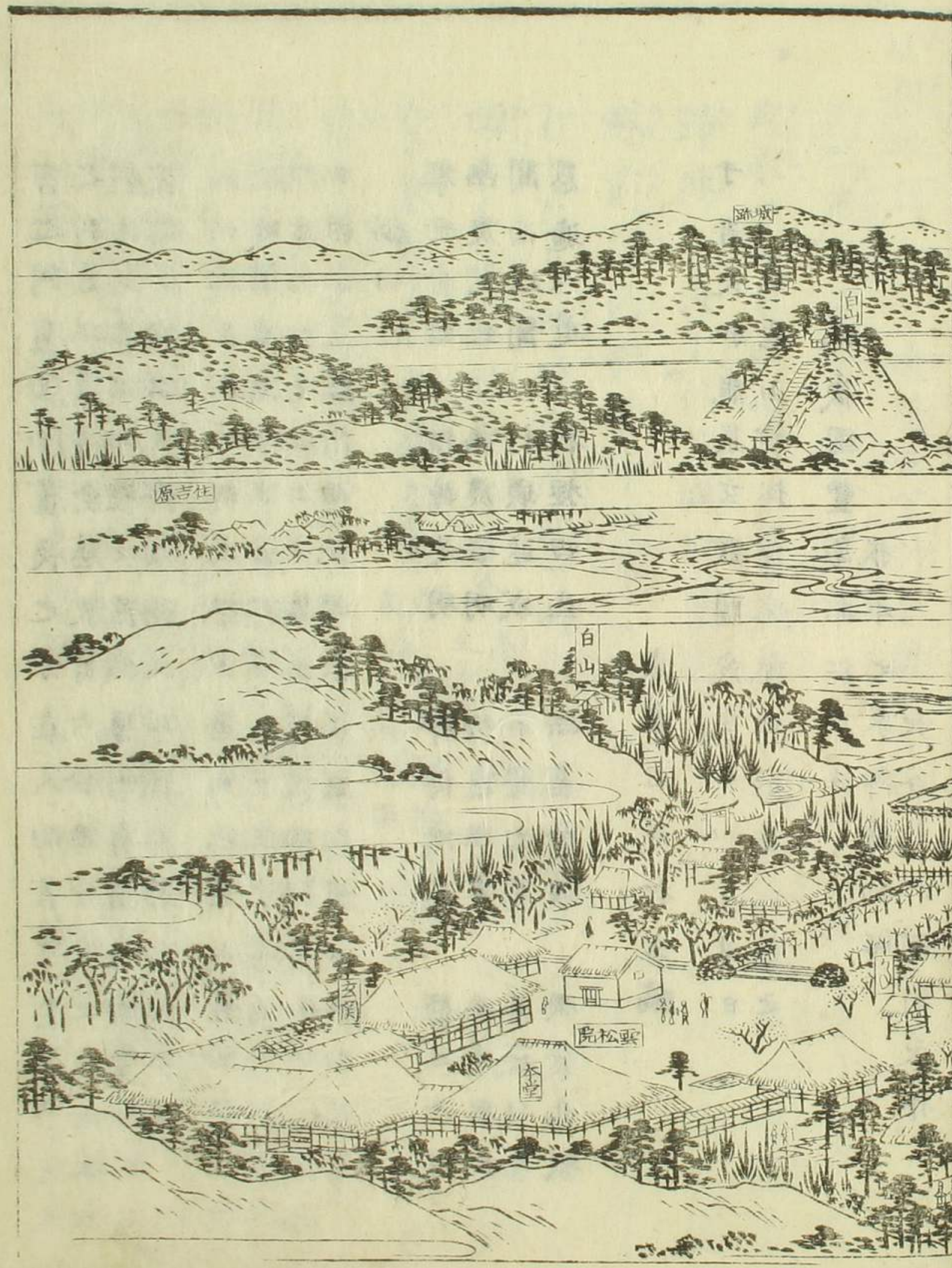
観音山



熊野推現山

熊野推現山 観音堂の山續め、堂の左の方、高き
 地、形、く、かり、ある、草、祠、あり、往、古、小、田、原、北、条、家、の、功、臣、間、宮、
 四、郎、左、衛、門、の、城、壘、の、址、なり、と、云、前、條、の、本、宿、町、海、道、道、
 より、右、よ、付、る、所、の、熊、野、推、現、社、の、あり、或、ハ、此、社、を、移、し、て、
 其、跡、へ、こ、の、草、祠、を、置、く、旧、地、を、存、せ、し、め、小、田、原、記、し、
 永、正、七、年、の、秋、七、月、上、杉、治、部、少、輔、入、道、建、芳、被、官、上、田、
 藏、人、と、云、一、者、謀、叛、を、企、く、北、條、早、雲、一、味、一、武、州、神、
 奈、川、なる、熊、野、推、現、山、を、城、廓、に、構、へ、楯、籠、り、依、り、治、部、
 少、輔、自、大、將、と、し、管、領、より、加、勢、成、田、下、總、守、洪、江、
 孫、次、郎、藤、田、虎、壽、丸、大、石、源、左、衛、門、長、尾、孫、太、郎、り、名、代、
 矢、野、安、藝、入、道、長、尾、但、馬、守、り、名、代、成、田、中、務、丞、其、外、
 武、藏、の、南、一、揆、を、かり、催、し、同、月、十、一、日、推、現、山、を、走、向、ひ、
 同、十、九、日、追、責、戦、ひ、終、り、城、を、落、と、し、あ、る、を、此、地、の、り、





小札城址
雲松院

言之則有陰陽晝夜之分在人而言之有迷語聖凡
之別蓋以我佛垂慈教導六利有情同圓覺性故又以
利生為事然而佛種濟淪稱其功德曷勝言哉茲有
設鐘聲佛諦技濟淪稱其功德曷勝言哉茲有
武州都築郡小机庄根古屋鄉臥竜山雲松院住持
別峰者曹洞之末孫大源派遠州高尾石雲院之
并新建也於是歲而施鐘於其眾因質余銘而記之
銘曰
舉世皆暗幽惟鐘是明明聲傳法界響徹幽冥
幽處聞鐘行願速成不聞而聞善提自生
恩遍六道利極四生無盡含識俱登化城

東臯心越杜多稿

于昔天和龍集玄黻關茂季春如意珠日
臥竜山雲松禪院現住宗龍代置之

武藏國豐島郡江戸住家御鑄物師國永作
根本之長谷川刑部

小机城跡同一通道五丁計を隔て道あり右の方城坂と云と

二町分登るあり土人ハ城山と号せり今官林とて小田原記小

天永四年甲申正月十三日北条氏綱上杉朝興と攻落し

歸陣の後小机の城を普請ありと記せり依老臣笠原

越前守同能登守父子を城代とて此所ハ居住せ

むとなり封境今南北一町余東西四町計の小阜に

回る小違の形を存せり高六七中心の平地幾り百歩

をりあり今畠とて古ハ橋樹郡都築郡ハあり又笠原

家の臣沼上出羽とつる人の子孫今此地ハ存を其家

刀劍の類と収むると云内井田の地と領せり此出羽

某とて云あり又同書小笠原藤左衛門とつる人ハ机八羽と領し笠原

佐渡とつる左衛門佐知の内小机御島真論と領せり又笠原

高田畠番助ハ机菅生の内と領し笠原平左衛門とつる人ハ机

師岡の地名と云あり越前守の氏族なりとあり

白山権現城山の東池山嘴ハあり古の鎮守ありと云傳ハ

松龜山泉谷寺 本覚院と号し城山より五六町と隔て長津

田通道の左にあり大門三丁計、間左右に櫻の列樹あり

浄土宗中々花洛智恩院に属せり本

尊一光三尊の阿弥陀如来本像あり二尺八寸計あり

作者ありくは當寺ハ鈴木但馬守とて人の開創あり

此の人名と泉谷と 弘治元年

化寂を下徳飯沼 中門の前ハ天正十八年小田原北条家より建

天正十八年比制札あり

淡島明神社 相模街道大熊村を左へ十三四町入る折本村ハ

ありと神主雲路氏奉祀を祭禮ハ二月三日縁日ハ毎月三日

十三日中々祭神ハ少彦名命及び神功皇后二座なり 勸

清の初ハ詳ありと云

櫻樹 神前東の方あり昔土人此山ハ入櫻の老樹を薪

大なる蛇あり其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

根を伐りて其樹を削りて必く里人必く恐怖し後ハ其

多目周防守宅地 青木町の中ありと心得られとて其地定あり

小田原記信玄小田原と襲わらる茶下ハ多目周防守との項

青木とつゝあり居住しつゝあり

程ヶ谷時田城の条下ハ詳あり

東古戦録ハ地人信州上州の境西

小田原記ハ多目周防守と吉良左兵衛佐義門の家屋ありと云

北条家の領後懐小より考へハ北条の臣ありありけし義門を

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

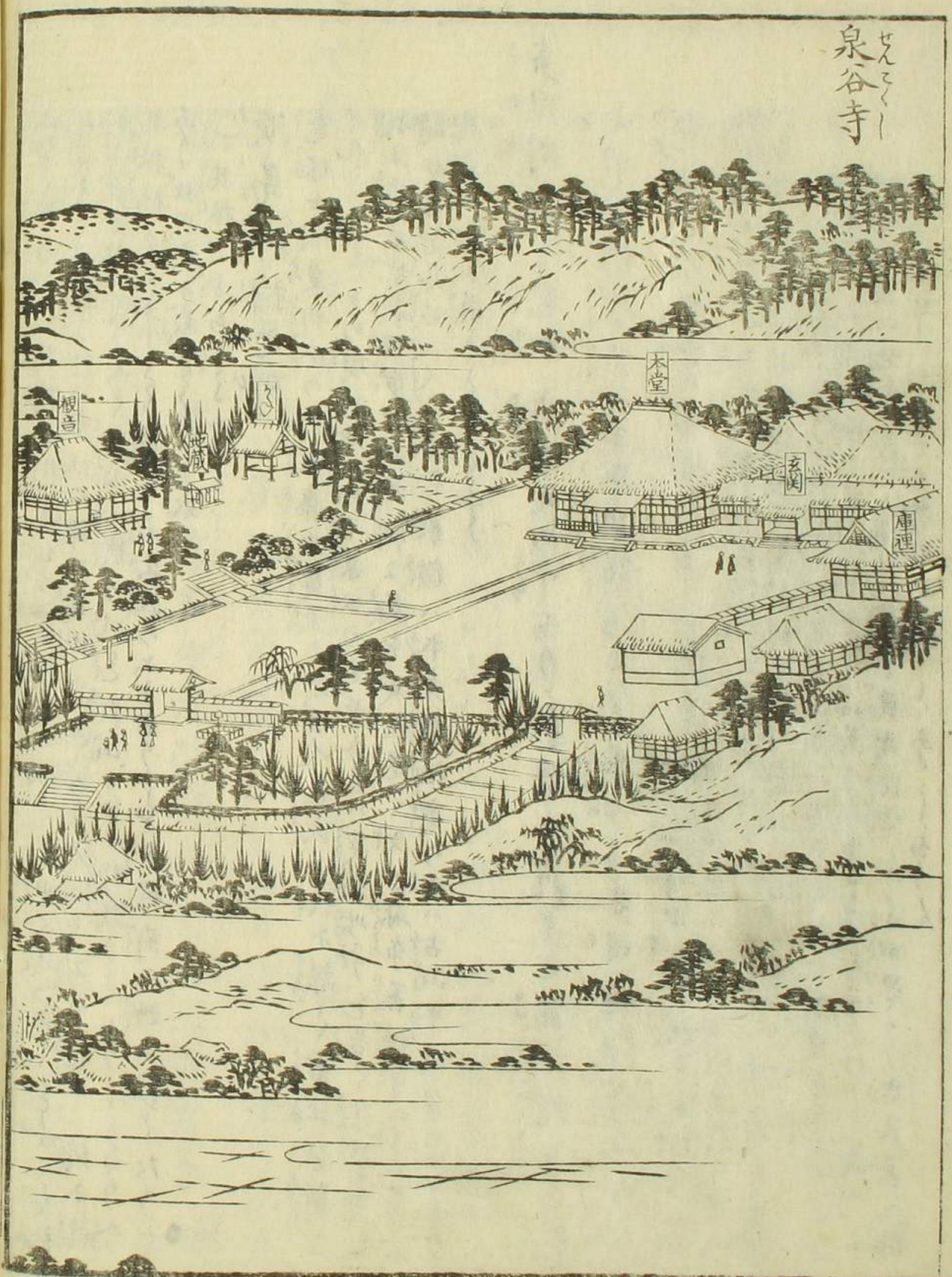
北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

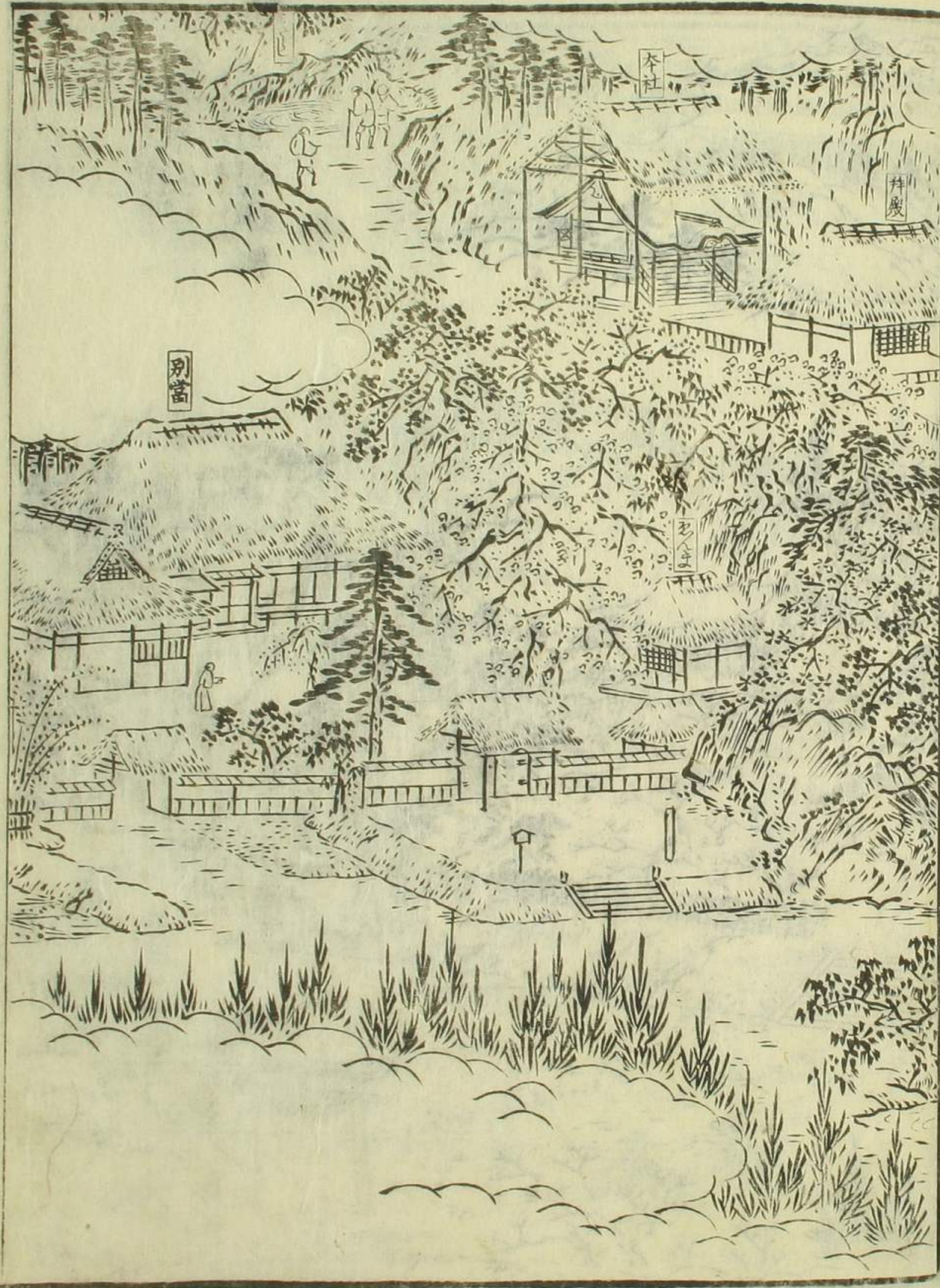
北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

北条康の妹婿ありと吉良家小属しありあり

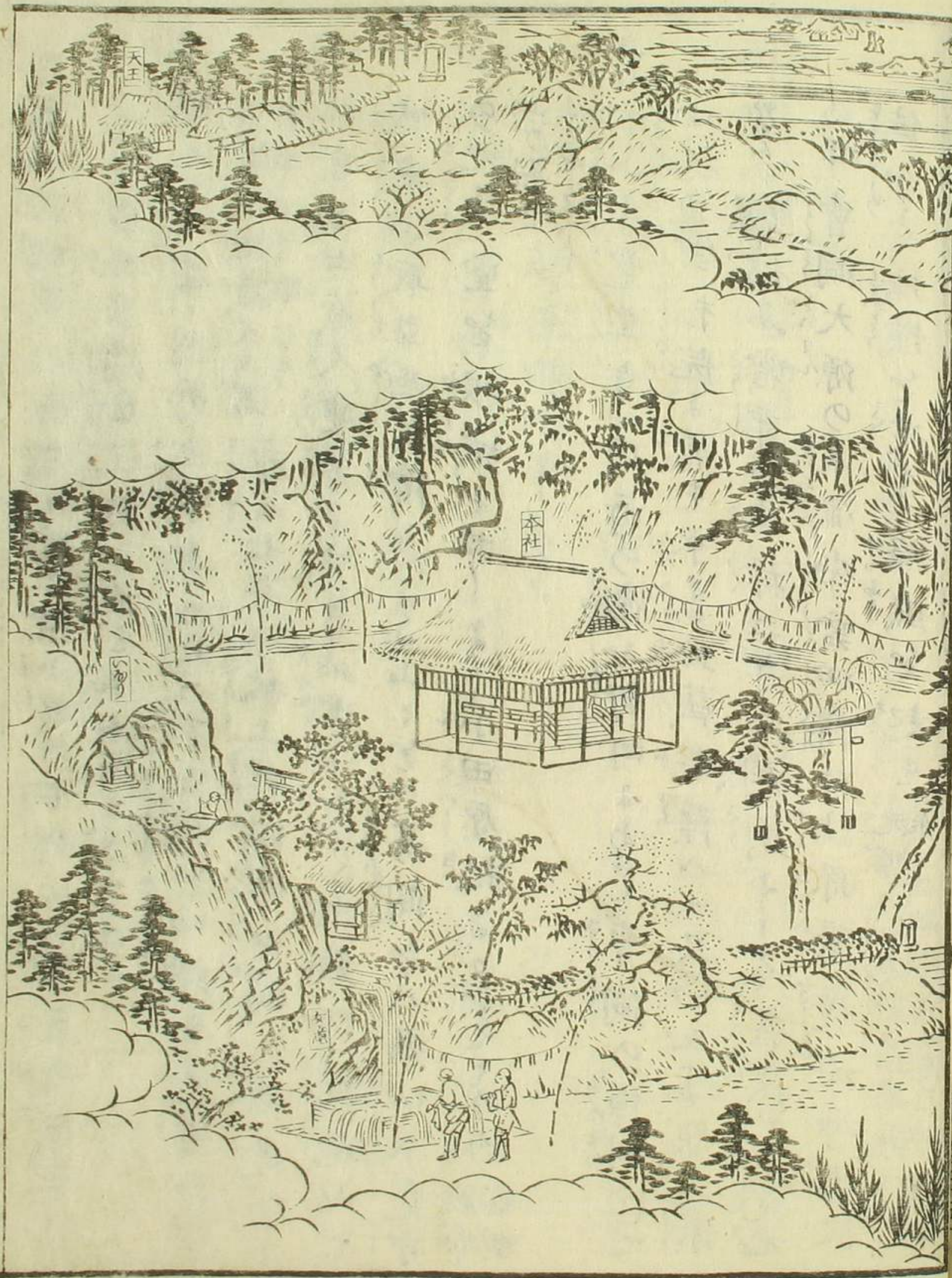


泉谷寺
いづみや



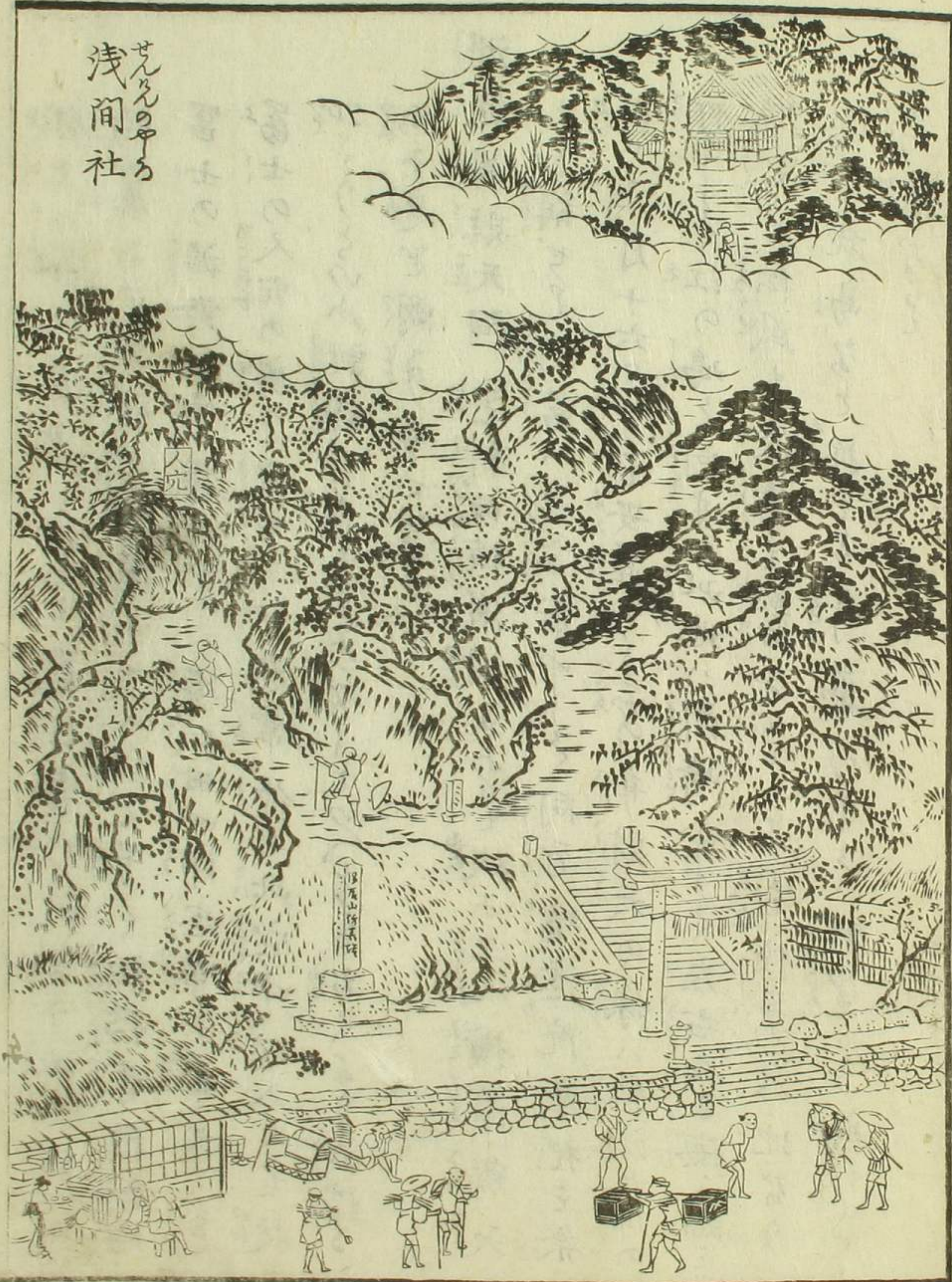


師岡
熊野権現宮



折本村
あはぬらうん
淡島明神社

浅間社
せんまのやしろ



富士浅間祠 同所の南芝生村海道の右の方山の中腹にあり

以ひきや神の滝流とかけるとろふ極楽をまぬへといハ 光廣
 按小黄葉集よ初五文字とあるまちのとあゝゝあ結句のとつととやとと黄
 葉集をわおゝゝゝく傳写のゆゑありあうへゝ

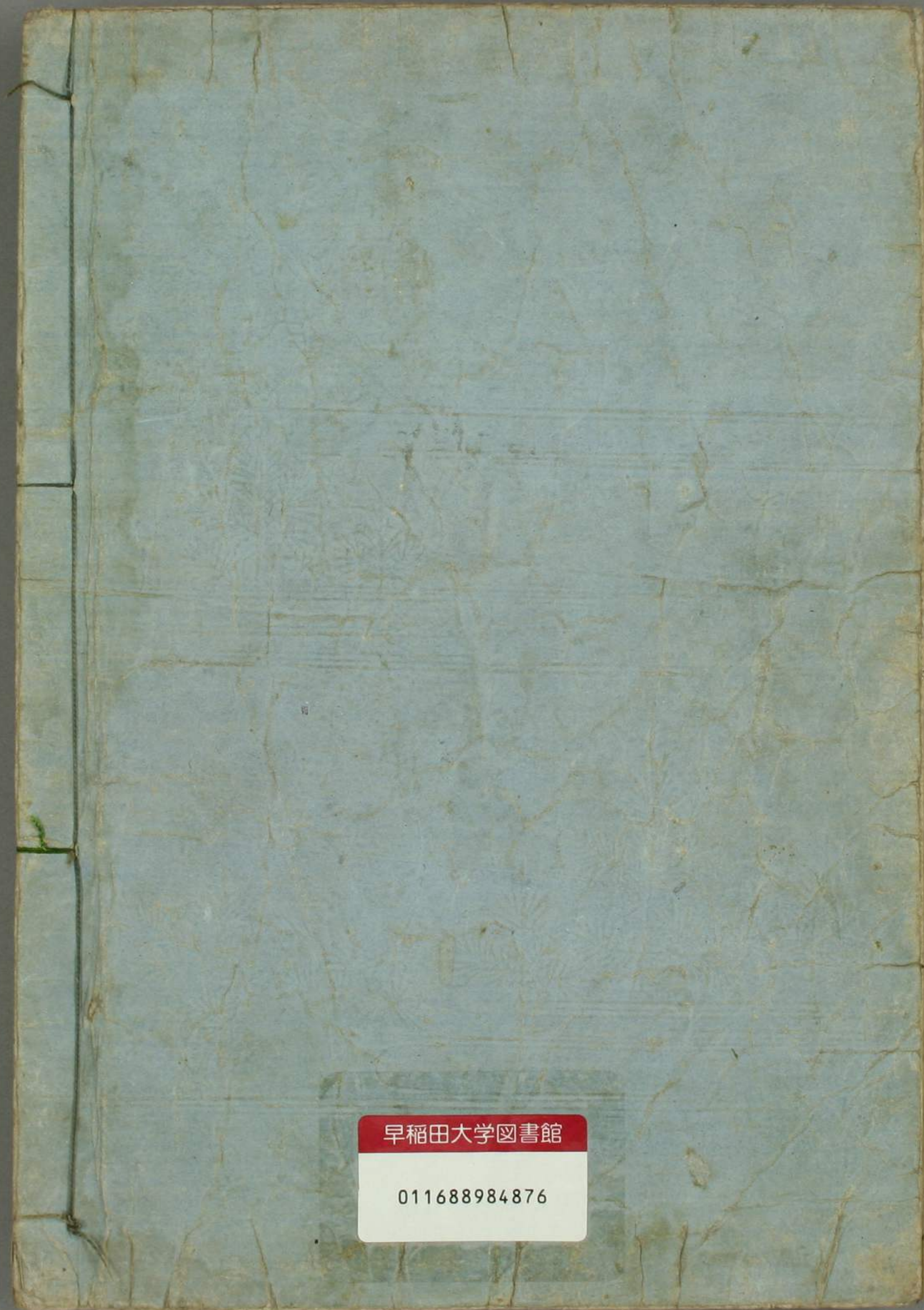
八月伊豆國石橋山敗軍の後安房國へ渡海の時本宮の
 靈亦よありと風浪の難と逃れひ其後竟小天下第一統を
 めひりハ文治年間此地は宮社造営ありと神領を寄
 らせありととなりと遙の後大田道灌此地よりとて尤も信厚
 かりと云

袖の浦 此地の光景長汀曲浦さびく袖の形は似くもあふ名
 とを鳥丸大納言光廣卿關東下向の頃帰路ふ再此地
 よきりあひく和歌を詠せ
 其時みづくを深き入詠草ハ此地
 江戸屋何某ヶ家に秘免置り

こゝひ袖の浦は泊るゝ

保土ヶ谷天徳寺とつる真言寺の持なり此地に一の
暗窟あり上俗是を富士の人穴と号く相傳青頼朝卿
富士の裾野小所獵ありとて頃仁田四郎忠常も余せしむ
富士の人穴の奥を究めしむ忠常終小此穴中に入りて抜
けしむとつる小誕譚ありとつるなりとつるも古くより云傳
あり是を闕りありとつる

洲乾辨財天祠 芒新田横濱村あり故小土人横濱辨天
とて稱せし別當ハ真言宗とつる同所増徳院奉祀を祭
礼ハ十一月十六日なり安置せし所の弁財天の像ハ弘法大師の
作とつる江の嶋と日本之此地ハ洲崎とつる左右共ハ海に臨
海岸の松風を波濤ハ響をうとつる尤佳景地なり
海中姥島なりと稱せし奇巖ありとつる眺望せしなり
秀美なりと



早稲田大学図書館

011688984876